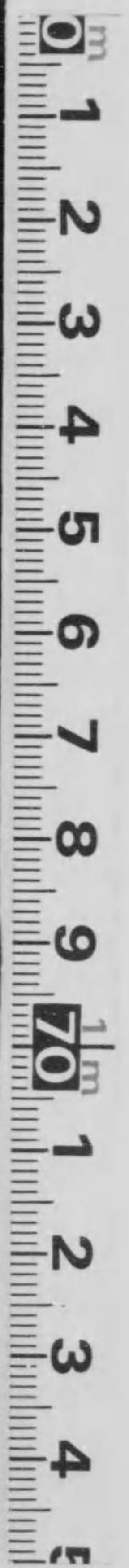


283
31



始

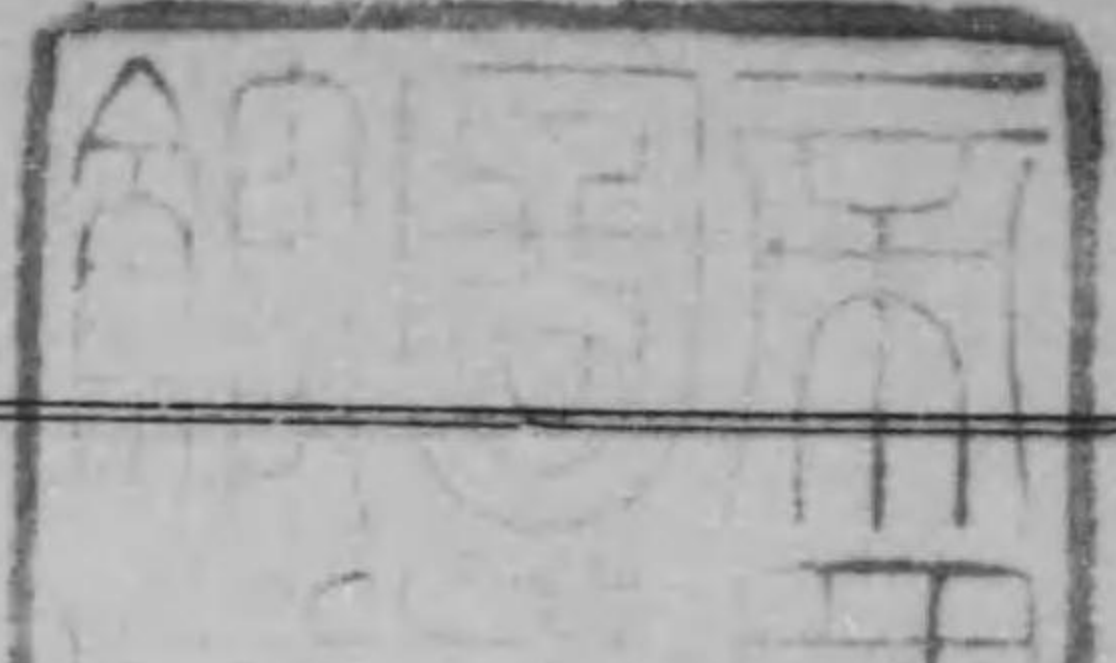


283

3/

水戸高等學校一覽

自大正十五年



水戸高等學校一覽

自
大正
十四
年

校
寄
贈
本

目次

◇ 沿革略	一頁
◇ 水戸高等學校學則	五頁
◇ 細則	一七頁
▽ 生徒心得要項	一七頁
▽ 生徒心得細則	一八頁
▽ 學級總代及副總代規程	一八頁
▽ 寄宿舍細則	一九頁
▽ 寄宿舍收容規程	二〇頁
▽ 服裝規程	二一頁
▽ 校務分掌規程	二四頁

大正
14. 10. 15
寄贈

▽評議員會規程	三一頁
▽職員服務心得	三二頁
▽文書處理細則	三四頁
▽宿直規程	三五頁
▽物品會計規程細則	三八頁
▽圖書監守使用規程	四四頁
▽圖書閱覽規程	四七頁
▽警備規程	五〇頁
◇職員	五一頁
◇生徒	六一頁
◇生徒出身學校府縣別調	八七頁
◇卒業生	九二頁
◇大正十四年卒業者ノ狀況調	一一三頁

◇敷地建物略圖	
◇水戸高等學校校友會會則	一一五頁
◇水戸高等學校校友會會計規程	一二二頁

參照

◇高等學校令(抄)	一二五頁
◇高等學校規程(抄)	一二七頁
◇文部省直轄諸學校官制(抄)	一四二頁
◇文部省直轄諸學校長職務規程	一四三頁
◇高等學校教員規程(抄)	一四五頁
◇官立高等學校高等科入學者選拔試驗規程	一五〇頁
◇高等學校高等科入學資格試驗規程	一五三頁
◇專門學校入學者檢定規程	一五四頁
◇學生生徒兒童身體檢查規程(抄)	一五五頁

◇發育概評決定標準(抄)……………一六〇頁

◇文部省直轄諸學校生徒ノ學校長ノ許可ナクシテ受ケタル他ノ直轄諸學校入學試験無効ニ關スル規程……………一六一頁

◇高等學校學則……………一六二頁

◇高等學校學則施行規則……………一六三頁

◇高等學校學則施行規則施行細則……………一六四頁

◇文部省直轄諸學校學則……………一六五頁

◇文部省直轄諸學校學則施行規則……………一六六頁

◇文部省直轄諸學校學則施行規則施行細則……………一六七頁

◇文部省直轄諸學校學則施行規則施行細則……………一六八頁

◇文部省直轄諸學校學則施行規則施行細則……………一六九頁

◇文部省直轄諸學校學則施行規則施行細則……………一七〇頁

◇文部省直轄諸學校學則施行規則施行細則……………一七一頁

◇文部省直轄諸學校學則施行規則施行細則……………一七二頁

水戸高等學校一覽

沿革略

自大正十四年
至大正十五年

大正八年

八月二十六日

内田信也氏本校創設費トシテ寄附金壹百萬圓(敷地價格ヲ含ム)ヲ政府ニ完納ス

大正九年

四月十七日

勅令第一百十號ヲ以テ本校ヲ設置セラレ同第一百十一號ヲ以テ職員定員ヲ定メラル(校長一人、教授十六人、書記二人)

四月十九日

北海道帝國大學附屬大學豫科教授渡邊又次郎學校長ニ任セラル

四月二十日

文部省告示第二百八十號ニ依リ事務所ヲ文部省内ニ置キ事務ヲ開始ス

六月一日

五月二十五日文部省告示第三百二十七號ニ依リ事務所ヲ茨城縣東茨城郡水戸町ニ移シ事務ヲ開始ス



城郡常磐村本校内ニ移ス

八月二十五日 本校學則ヲ制定シ同月諸細則ヲ制定ス

九月一日 生徒二百人ノ入學ヲ許可シ同月六日授業ヲ開始ス

大正十年

三月三十日 勅令第五十號ヲ以テ本校職員定員ヲ増加セララル

四月一日 學則中學年學期及休業日ニ關スル件竝ニ授業料及寄宿料ニ關スル件

ヲ改正ス
(校長一人、教授二十三人、助教授一人、書記四人)

四月十六日 服裝規程ヲ改正ス

五月七日 評議員會規程ヲ改正ス

大正十一年

四月一日 學則中授業料及寄宿料ニ關スル件ヲ改正ス

四月十五日 勅令第二百四號ヲ以テ本校職員定員ヲ増加セララル

(校長一人、教授三十人、助教授五人、書記六人)

五月二十二日 寄宿舎收容規程ヲ改正ス

六月二十七日 校友會會則竝ニ校友會會計規程ヲ改正ス

八月八日 圖書監守使用規程竝ニ圖書閱覽規程ヲ制定ス

大正十二年

一月二十日 教育ニ關スル勅語謄本ヲ拜戴ス

一月三十日 天皇陛下 皇后陛下御眞影竝ニ皇太子殿下ノ御影ヲ拜戴ス

三月十五日 第一回卒業生徒百二十五人ニ卒業證書ヲ授與ス

三月三十一日 職員服務心得ヲ改正ス

五月二十四日 學則中學業成績考査ニ關スル件ヲ改正ス

六月十日 本校落成記念式ヲ舉行シ文部大臣臨場セララル

十一月一日 校友會會則ヲ改正ス

大正十三年

一月三十日 警備規程ヲ制定ス

五月二十四日 校友會會則中改正ス

大正十四年

一月二十日 細則中教授會規程ヲ廢止シ校務分掌規程ヲ改正ス

四月一日 學則中授業料ニ關スル件ヲ改正ス

三月十五日 第一回小學生會百二十五人ニ分會會費ヲ課ス
三月二十日 大正十四年校務分掌規程ニ關スル件ヲ改正ス
三月二十七日 校務分掌規程ニ關スル件ヲ改正ス
三月三十日 校務分掌規程ニ關スル件ヲ改正ス
四月一日 校務分掌規程ニ關スル件ヲ改正ス
四月十五日 校務分掌規程ニ關スル件ヲ改正ス
五月十五日 校務分掌規程ニ關スル件ヲ改正ス
六月十五日 校務分掌規程ニ關スル件ヲ改正ス
七月十五日 校務分掌規程ニ關スル件ヲ改正ス
八月十五日 校務分掌規程ニ關スル件ヲ改正ス
九月十五日 校務分掌規程ニ關スル件ヲ改正ス
十月十五日 校務分掌規程ニ關スル件ヲ改正ス
十一月十五日 校務分掌規程ニ關スル件ヲ改正ス
十二月十五日 校務分掌規程ニ關スル件ヲ改正ス

水戸高等學校學則

第一章 總則

第一條 本校ハ大正七年勅令第三百八十九號高等學校令ニ依リ男子ノ高等普通教育ヲ完成シ特ニ國民道德ノ充實ニカムルヲ以テ目的トス

第二條 本校ノ學科ハ大正八年文部省令第八號高等學校規程所定ノ高等科文科及理科トス

第二章 學年學期及休業日

第三條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第四條 學年ヲ分チテ左ノ三學期トス

第一學期 四月一日ヨリ
八月三十一日マテ

第二學期 九月一日ヨリ
十二月三十一日マテ

第三學期 一月一日ヨリ
三月三十一日マテ

第五條 休業日左ノ如シ

日曜日
 大祭日
 春期休業 三月十六日ヨリ 四月七日マテ
 夏期休業 七月十一日ヨリ 九月十日マテ
 冬期休業 十二月二十五日ヨリ 翌年一月七日マテ
 第六條 式日左ノ如シ
 入學式日
 創立記念日 (四月十七日)
 天長節祝日
 一月一日
 紀元節
 卒業式日

第三章 學科課程

第三章 學科課程

第七條 文科及理科ハ之ヲ甲類及乙類ニ分ツ
 甲類ハ英語ヲ第一外國語トシ獨語ヲ第二外國語トスルモノ乙類ハ獨語ヲ第一外國語トシ英語ヲ第二外國語トスルモノトス
 第八條 文科甲類及乙類ノ各學年ノ學科課程及每週教授時數ハ左表ノ如シ

學科	第一學年		第二學年		第三學年	
	甲類	乙類	甲類	乙類	甲類	乙類
修身	一	一	一	一	一	一
國語及漢文	六	六	五	五	五	五
英語	九	(三)	八	(三)	八	(三)
獨語	(四)	二	(四)	一〇	(四)	一〇
歷史	三	三	五	五	四	四
地理	二	二				
哲學概說					三	三
心理及論理			二	二	二	二
法制及經濟			二	二	二	二

數	三	三	三	三	三
自然科學	二	二	三	三	三
體操	三	三	三	三	三
計	(二九)	(三三)	(二九)	(三一)	(三〇)

第二外國語ヲ修メサル者ニ對シテハ便宜他ノ學科目ヲ課ス

第九條 理科甲類及乙類ノ各學年ノ學科課程及每週教授時數ハ左表ノ如シ

學科	第一學年		第二學年		第三學年	
	甲類	乙類	甲類	乙類	甲類	乙類
修身	一	一	一	一	一	一
國語及漢文	四	四	二	二	一	一
英語	八	(三)	六	(三)	六	(三)
獨語	(四)	(一)	(四)	九	(四)	カ
數學	四	四	四	四	(二)	(二)
物理			三	三	三	三
化學			三	三	五	五

植物及動物	二	二	二	二	二	講義二 實驗二	講義一 實驗一
礦物及地質							
心理							
法制及經濟	二	二	二	二	二		
圖畫	二	一	二	二	(二)		(二)
體操	三	三	三	三	三		(二)
計	(二八)	(三〇)	(二八)	(三一)	(二八)	(二八)	(三一)

第三學年ニ於ケル數學【二】及圖畫【二】ト植物及動物講義二實驗二トハ生徒ヲシテ其ノ一ヲ撰擇セシム

第二外國語ヲ修メサル者ニ對シテハ便宜他ノ學科目ヲ課ス

第四章 入學在學休學退學

第十條 入學ノ期ハ學年ノ始ヨリ三十日以内トス

第十一條 第一學年ニ入學スルコトヲ得ル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當シ體格検査ニ合格シタル者ニ限ル

- 一 中學校第四學年ヲ修了シタル者
 - 二 高等學校尋常科ヲ修了シタル者
 - 三 高等學校高等科入學資格試験ニ合格シタル者
 - 四 專門學校入學者檢定規程ニ依リ試験檢定ニ合格シタル者
 - 五 文部大臣ニ於テ高等學校高等科ノ入學ニ關シテ指定シタル者
 - 六 文部大臣ニ於テ一般ノ專門學校ノ入學ニ關シテ中學校卒業者ト同等以上ノ學力アリト指定シタル者
- 第十二條 入學志願者ハ本校ヨリ入學志願者名票ノ交付ヲ受ケ之ニ所要ノ事項ヲ記入シ檢定料金五圓及最近ノ撮影ニ係ル寫眞ヲ添ヘ指定ノ期日マテニ本校ニ差出スヘシ
- 第十三條 入學志願者ノ數募集人員ニ超過シタル時ハ選抜試験ヲ行ヒ入學者ヲ定ム選抜試験ノ程度及選抜ノ方法ハ大正八年文部省令第十四號官立高等學校高等科入學者選抜試験規程ニ依ル

- 第十四條 入學許可ノ通知ヲ受ケタル者ハ本校ヨリ交付スル學籍簿用紙ニ所要ノ記入ヲナシ入學資格證明書ニ入學料金參圓ヲ添ヘテ指定ノ期日マテニ本校ニ差出スヘシ
- 第十五條 生徒疾病又ハ事故ニヨリ授業ニ缺席スルトキハ當日ヨリ三日以内ニ其ノ旨届出ツヘシ
- 第十六條 生徒疾病又ハ事故ニヨリ三箇月以上出席スルコト能ハサル見込ノ者ハ事由ヲ具シテ當該學年間休學ヲ願出ツルコトヲ得
- 第十七條 生徒兵役ニ服スルカ爲ニ三箇月以上出席スルコト能ハサル見込ノ者ハ事由ヲ申告シテ服役中休學ノ取扱ヲ受クルコトヲ得
- 第十八條 休學シタル生徒ハ次學年ノ始メヨリ原級ニ復シテ修學スヘキモノトス但シ兵役ニ服シタル者ノ課業ニ就クヘキ時期ハ服役滿期後四週日以内トス
- 第十九條 生徒疾病又ハ事故ニヨリ退學セントスルトキハ事由ヲ具シテ其ノ旨願出ツヘシ

第二十條 生徒左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ諭旨シテ退學セシム

一 性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認めタル者

二 學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認めタル者

三 引續キ一箇年以上出席セサル者

四 正當ノ理由ナク引續キ一箇月以上出席セサル者

五 出席常ナラサル者

第二十一條 生徒左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ學籍ヲ除ク

一 授業料又ハ寄宿料ノ滯納十五日ニ及フ者

二 二箇年間同一學年ニ在リテ尙ホ進級又ハ卒業セサル者

三 第二十二條ノ諭旨ノ後十五日ヲ經テ尙ホ手續ヲ了セサルモノ

第二十二條 一旦退學シタル者一箇年以内ニ再ヒ入學ヲ願出ツルトキハ第二學年以

上ノ生徒タリシ者ニ限り詮議ノ上原級ニ復學セシムルコトアルヘシ

第二十三條 生徒ノ入學及退學ニ關シテハ本章ニ定ムルモノノ外臨機ノ取扱ヲナス

コトアルヘシ

第五章 學業成績考査

第二十四條 生徒ノ學業成績ヲ考査センカ爲ニ各學期末ニ於テ各學科目ノ試験ヲ行フ但シ學科目ノ種類ニヨリ全部又ハ一部ノ試験ヲ行ハサルコトアルヘシ

第二十五條 生徒ノ學業成績ハ各學科目ノ學期評點及學年評點ヲ以テ之ヲ表示ス

各學科目ノ學期評點ハ該學科目ノ學期試験及平素ノ成績並ニ勤惰ヲ參酌シテ之ヲ定ム

各學科目ノ學年評點ハ該學科目ノ各學期評點ヲ平均シテ之ヲ定ム

第二十六條 各學科目ノ評點ハ一百ヲ以テ滿點トス

第二十七條 試験ヲ缺キタル學科目ノ學期評點ハ該學期ニ於ケル平素ノ成績及勤惰

ト他ノ學期ニ於ケル該科目ノ學期評點トヲ參酌シテ學年末ニ於テ之ヲ定ム但シ停學又ハ正當ト認め難キ事由ノ爲ニ試験ヲ缺キタル學科目ノ學期評點ハ詮議ノ上之

ヲ決定ス

第二十八條 各學科目ノ學年評點五十以上總科目ノ平均學年評點六十以上ヲ得タル者ハ之ヲ及第トシテ進級又ハ卒業セシメ然ラサル者ハ之ヲ落第トシテ原級ニ止ム但シ學年評點五十未滿ノ學科目二箇以內ヲ有スル者ハ平均學年評點佳良ニシテ特別ノ事情アリト認メタル場合ニ限り詮議ノ上之ヲ及第セシムルコトアルヘシ當該學年間ニ於ケル平素ノ勤惰、行狀及出缺席ノ情況等ニ依リテ學業成績ノ如何ニ拘ハラズ進級又ハ卒業セシメサルコトアルヘシ

第六章 授業料及寄宿料

第二十九條 授業料ハ一學年金六拾五圓トス但シ大正九年度及同十年年度入學者ニ對シテハ金四拾圓同十一年度乃至十三年度入學者ニ對シテハ金五拾圓トス

第三十條 授業料ハ各學期ニ於テ左記ノ如ク分納セシム

第一學期	大正九年度及同十年年度入學者 金拾貳圓	大正十一年度乃至同十三年度入學者 金拾五圓	大正十四年度以降入學者 金貳拾圓
第二學期	金拾六圓	金貳拾圓	金貳拾五圓

第三學期 金拾貳圓 金拾五圓 金貳拾圓

授業料納付ノ期日ハ別ニ之ヲ定ム

第三十一條 授業料ハ缺席、停學、休學等ノ爲ニ之ヲ免除セス但シ兵役ノ爲ニ或學期ノ全部ヲ休學スル者ニ對シテハ當該學期ノ分納額ヲ免除ス

第一學期又ハ第二學期中ニ於テ退學シタル者ニ對シテハ次學期以後ノ分納額ヲ免除ス

學年ノ半途ヨリ入學シタル者ニ對シテハ當該學期分ヨリ徴收ス

第三十二條 一定ノ期日中ニ授業料ヲ納付セサル者ニ對シテハ之ヲ納付スルマテ授業ヲ停止ス

第三十三條 寄宿舎ニ於テ修學スル生徒ニ對シテハ授業料納付ト同一ノ日ヲ以テ左ノ寄宿料ヲ納付セシム

第一學期分 金四圓五拾錢
第二學期分 金 六 圓

第三學期分 金四圓五拾錢

寄宿料納付期日前ニ退舍シタル者及期日後ニ入舍シタル者ニ對シテハ當該學期分ノ月割額ヲ徴收ス

第七章 賞 罰

第三十四條 生徒ノ各學年ニ於ケル修學ノ狀況及其ノ結果ヲ考査シテ他ノ生徒ノ模範トナスヘキ者ハ適當ノ方法ニ依リ之ヲ表彰ス

第三十五條 生徒ニシテ其ノ本分ヲ缺キタル者アルトキハ其ノ輕重ニ從ヒ適宜之ヲ懲戒ス

懲戒ハ通常戒飭及停學ノ二種トシ本分ヲ缺クコトノ特ニ甚シキ者ハ之ヲ放校ニ處ス

第八章 寄宿及通學

第三十六條 生徒ハ特別ノ事情ニヨリ通學ノ許可ヲ得タル者ノ外本校ノ寄宿舎ニ於テ修學スヘキモノトス

第三十七條 通學生徒ニシテ宿所ヲ變更セントスルトキハ其ノ旨學校ニ届出ツヘシ

第三十八條 通學生徒ノ宿所ニシテ不適當ト認メタル場合ハ轉宿ヲ命ス

第九章 服 制

第二十九條 生徒ハ本校所定ノ服裝ヲナスヘシ
新ニ入學シタル生徒ニ對シテハ入學後三十日間ハ前項ノ規定ヲ適用セス

細 則

生徒心得要項

第一條 本校生徒ハ吾カ國體ト國民道德ノ精髓トヲ了得シテ校規ヲ嚴守シ教訓ヲ服膺シ智徳ヲ修練シ身體ヲ健全ニシ以テ國家カ要望スル有用ノ材タランコトヲ期スヘシ

第二條 生徒ハ時勢ノ必要ニ鑑ミ特ニ左記ノ事項ニ就キテ最善ノ努力ヲナスヘシ

- 一 業務ヲ樂ミ責任ヲ重ンシ忠實恪勤ノ性格ヲ作ルコト
- 二 廉耻ヲ尙ヒ誘惑ヲ斥ケ堅固不拔ノ志操ヲ持スルコト

三 輕薄奢侈ノ傾向ヲ戒メ専ラ摯實質素ヲ旨トスルコト
四 自治獨創ノ習性ヲ養ヒ共同犧牲ノ精神ヲ發揮スルコト

生徒心得細則

第一條 生徒ハ本校職員ニ對シテハ勿論相互ニ敬禮スヘシ

第二條 生徒集會ヲ催サントスル時ハ豫メ訓務課ニ届出ツヘシ

第三條 生徒揭示ヲナサントスル時ハ豫メ訓務課ノ檢閲ヲ受クヘシ

第四條 教室ニ於テハ必ス脱帽シ靜肅ヲ旨トシ授業ノ始終ニハ教官ニ對シテ立禮ス

ヘシ

第五條 退學願休學願缺席届出等ハ學級主任ノ檢印ヲ經テ教務課ニ差出スヘシ

第六條 建物器具等ヲ毀損汚染シタルモノハ辨償セシム

第七條 風紀ヲ紊ス虞アル場所ニハ立入ルヘカラス

第八條 講堂其ノ他危險ノ恐レアル場所ニ於テ喫煙スヘカラス

學級總代及副總代規程

第一條 各學級ニ總代及副總代各一名ヲ置ク

第二條 學級總代及副總代ハ其ノ學級生徒ヲシテ互選セシメタル數名ノ候補者中ニ就キテ之ヲ命シ其ノ任期ハ一學年間トス

第三條 學級總代ハ其ノ學級生徒ヲ代表シ該學級主任ノ指揮ノ下ニ校規命令ノ徹底ニ努メ兼テ其ノ教室内ノ秩序及清潔ヲ保持スヘキモノトス
學級副總代ハ總代ヲ補助シ總代不在ノ時ハ之ヲ代理スルモノトス

第四條 學校長又ハ生徒監ニ於テ必要アリト認メタル場合ハ隨機學級總代ヲ召集ス

寄宿舍細則

第一條 寄宿舍ハ每學年ノ始業前三日ニ開キ其ノ終ニ閉ツ

第二條 各室人員ノ配當ハ生徒監之ヲ定ム

第三條 自修食事外出歸舍其ノ他ノ時限等ハ校長ノ承認ヲ經テ生徒監之ヲ定ム

第四條 舍生外出スル時ハ入口備付ノ姓名札ニ依リ其ノ在否ヲ明カニスヘシ

第五條 外出先ニ於テ病氣其ノ他事故ノ爲メ外泊シ又ハ歸舍時刻ニ遅刻シタル時ハ

其ノ行先ヨリ證明書ヲ得テ歸舍ノ際届書ニ添ヘテ差出スヘシ

第六條 歸舍時刻後外出セントスルモノハ訓務課ニ願出ツヘシ

第七條 病氣又ハ止ムヲ得サル事情アリテ外泊セントスル者ハ事由日限ヲ詳記シ訓務課ニ願出ツヘシ

第八條 舍生病氣ニ罹リタル時ハ症狀ニヨリ下宿ヲ命スルコトアルヘシ

第九條 舍生ハ舍内ノ清潔及整頓ニ付各自其ノ責ニ任スヘキモノトス

第十條 舍生ニ達スル書留郵便物ニシテ受取證ヲ要スルモノ及電報ハ訓務課ヲ經由スルモノトス

第十一條 寄宿舍建物備品等ヲ毀損又ハ紛失セシ時ハ直ニ之ヲ届出テ辨償スヘシ

第十二條 舍生ハ舍生規約ヲ定メ學校長ノ許可ヲ得テ之ヲ實行スヘシ

寄宿舍收容規程

第一條 本校ニ校內寄宿舍及校外寄宿舍ヲ置ク

第二條 第一學年生徒ハ全部ヲ校內寄宿舍ニ收容ス

第三條 第二學年生徒ハ約九十名第三學年生徒ハ約四十名ヲ限り校內寄宿舍ニ收容ス

第四條 校內寄宿生タランコトヲ希望スル者カ前條ノ定員ヲ超過スル場合ハ抽籤其他適當ノ方法ニヨリテ在舍生ヲ決定ス

第五條 前條ニヨリ校內寄宿生タルコトヲ得サル生徒ハ自宅又ハ之ニ準スヘキ家ヨリ通學ノ許可ヲ得タル者ノ外總テ校外寄宿舍ニ收容ス但シ校外寄宿舍ノ完備セサル期間ニ限り願ニヨリ本校ニ於テ適當ト認メタル他ノ宿所ヨリモ通學スルコトヲ得シム

第六條 校內寄宿舍ニ缺員ヲ生シタル場合ハ入舍申込ノ順位ニヨリ校外寄宿生又ハ通學生ノ内ヨリ之ヲ補填ス

服裝規程

第一條 本校所定ノ服裝左ノ如シ

一 帽

正帽

製式 海軍形

品質 黒羅紗

帽章 金色六稜形

横章 白線(幅二分)二條

略帽

製式 縁三寸 高二寸五分

品質 麥藁

帽章並横章正帽ニ同シ

二夏服

製式 立襟背廣形

品質 藍鼠霜降り小倉織

鈕釦 金色

襟章 金色文字(文科ハL理科ハS)

三冬服

品質 紺色絨或ハ小倉織

製式 鈕釦及襟章ハ夏服ニ同シ

四靴 黒皮製

必要ノ場合ニ於テ黒色羅紗ノ卷脚絆ヲモ着用セシム

第二條 左ノ場合ニハ必ス所定ノ服装ヲナスヘシ

一 儀式舉行ノ場合

二 授業ヲ受クル場合

三 特ニ學校ヨリ指定シタル場合

第三條 制服着用ノ期間左ノ如シ

一 夏服 五月十六日ヨリ十月十五日マテ

但シ新ニ入學シタル生徒ニ限リ五月一日ヨリ着用スルコトヲ得

二 冬服 十月十六日ヨリ翌年五月十五日マテ

夏服着用ノ期間ニ限リ儀式若クハ體操ノ授業、場合及特ニ指定シタル場合ノ外ハ略帽ヲ着用スルコトヲ得

第四條 病氣其ノ他止ムヲ得サル事由ニ依リ制服ヲ着用スルコト能ハサル時ハ其ノ事由ヲ詳記シテ許可ヲ願出テ和服着用許可證ヲ受クルニアラサレハ授業ヲ受クルコトヲ得ス

第五條 生徒外出ノ際ハ制服ヲ着用スヘシ若シ和服ヲ着用スル時ハ必ス制帽及袴ヲ着用スヘシ

(圖ハ略ス)

校務分掌規程 大正十四年

第一條 校務ヲ分チテ教育部及事務部トス

第二條 教育部ニ屬スル校務ヲ教授及訓育トス

教授ハ學科毎ニ當該學科教官ノ擔任トス

訓育ハ全教官ノ擔任トシ生徒監ヲシテ之ヲ主掌セシム

第三條 各學科ニ學科主任ヲ置キ左ノ事項ヲ擔任セシム

一 當該學科教授上ノ整理及統一ニ關スル事項

二 當該學科ニ屬スル備品ノ保管及消耗品ノ受拂ニ關スル事項

第四條 各學科教授上ノ統一聯絡等ニ關シテ必要アル場合ニ於テハ隨時一部又ハ全部ノ學科主任會ヲ開ク

第五條 各學級ニ學級主任ヲ置キ生徒監ト協力シテ左ノ事項ヲ擔任セシム

一 擔任學級生徒ノ出缺、勤惰、學業、操行、健康等ニ關スル事項

二 擔任學級教室ノ整理及清潔ニ關スル事項

第六條 各學級生徒訓育ノ統一聯絡等ニ關シテ必要アル場合ニ於テハ隨時一部又ハ全部ノ學級主任會ヲ開ク

第七條 學科主任及學級主任ハ當該學科及學級ニ關係アル教官中ニ就キテ之ヲ命シ其

任期ヲ一學年間トス

第八條 學科課程、試驗其他學校長ニ於テ生徒ノ教育上重要ト認メタル事項ニ關シテ必要アル場合ニ於テハ隨時一部又ハ全部ノ教授會ヲ開ク
教授會ハ教授ヲ以テ組織ス但シ必要ノ場合ニ於テハ教授以外ノ職員ヲモ列席セシム

第九條 事務部ニ屬スル校務ハ教務課訓務課圖書課庶務課及會計課ノ五課ヲシテ之ヲ分掌セシム

第十條 各課ニ課長ヲ置キ所屬職員ヲ率キテ課務ヲ整理セシム
教務課長訓務課長圖書課長及庶務課長ハ教授中ニ就キテ之ヲ命シ會計課長ハ會計主任ヲ以テ之ニ充ツ

第十一條 各課員ハ教官書記雇員中ニ就キテ之ヲ命シ課務ニ従事スルノ外必要ニ應シテ他課ノ事務ヲ補助セシム
教授ニシテ課員ヲ命セラレタル者ハ必要ニ應シテ課長事務ヲ代理セシム

第十二條 教務課ニ於テハ左ノ事項ヲ掌ル

- 一 學科課程、教官ノ擔任學科目及ヒ授業時數ニ關スル事項
- 二 教授要目及教科用圖書ニ關スル事項
- 三 教室及教授上ノ設備ニ關スル事項
- 四 學級編成ニ關スル事項
- 五 休業ニ關スル事項
- 六 試驗、進級、卒業及成績證明ニ關スル事項
- 七 生徒ノ入學、退學、缺席等ニ關スル事項
- 八 生徒ノ學籍簿及出席簿ニ關スル事項
- 九 在學證明及兵役ニ關スル事項
- 十 卒業生ノ大學進入ニ關スル事項
- 十一 教授會、學科主任會ニ關スル事項
- 十二 參觀人ノ取扱ニ關スル事項

十三 以上ノ外教務ニ關スル一切ノ事項

第十三條 訓務課ニ於テハ左ノ事項ヲ掌ル

- 一 生徒ノ訓育ニ關スル事項
- 二 生徒ノ操行及服裝ニ關スル事項
- 三 生徒ノ賞罰ニ關スル事項
- 四 生徒ノ身體検査ニ關スル事項
- 五 生徒ノ體育及運動ニ關スル事項
- 六 生徒ノ集會竝ニ揭示ニ關スル事項
- 七 生徒ノ通學及宿所ニ關スル事項
- 八 生徒ノ入舍、退舍、外宿、旅行等ニ關スル事項
- 九 寄宿舍ノ設備、警衛及衛生ニ關スル事項
- 十 寄宿舍ノ炊事監督ニ關スル事項
- 十一 學級主任會ニ關スル事項

十二 以上ノ外生徒及寄宿舍ニ關スル一切ノ事項

第十四條 圖書課ニ於テハ左ノ事項ヲ掌ル

- 一 圖書ノ整理及保管ニ關スル事項
- 二 圖書ノ目錄ニ關スル事項
- 三 圖書ノ貸付ニ關スル事項
- 四 圖書ノ購入ニ關スル事項
- 五 圖書印ノ保管ニ關スル事項
- 六 書庫及閱覽室ニ關スル事項
- 七 以上ノ外圖書ニ關スル一切ノ事項

第十五條 庶務課ニ於テハ左ノ事項ヲ掌ル

- 一 御眞影竝ニ勅語謄本ニ關スル事項
- 二 職員ノ進退、身分竝ニ服務ニ關スル事項
- 三 學校長ノ官印並ニ校印ノ管守ニ關スル事項

- 四 儀式ニ關スル事項
 - 五 規則ノ制定並ニ變更ニ關スル事項
 - 六 公文書ノ接受並ニ發送ニ關スル事項
 - 七 公文書ノ整理及保存ニ關スル事項
 - 八 一覽、年報、統計及官報報告ニ關スル事項
 - 九 寄附ニ關スル事項
 - 十 宿直ニ關スル事項
 - 十一 評議員會ニ關スル事項
 - 十二 以上ノ外他課ニ屬セサル一切ノ事項
- 第十六條 會計課ニ於テハ左ノ事項ヲ掌ル
- 一 歲入歲出豫算及決算ニ關スル事項
 - 二 資金ニ關スル事項
 - 三 官有財産及物品ニ關スル事項

- 四 土地及建物ニ關スル事項
 - 五 會計検査ニ關スル事項
 - 六 備人ニ關スル事項
 - 七 校内ノ設備、警衛及衛生ニ關スル事項
 - 八 以上ノ外會計ニ關スル一切ノ事項
- 第十七條 各課ノ分掌事務ニシテ他課ニ聯關スルモノハ便宜關係課長又ハ課員ノ合議ヲ經テ之ヲ處理セシム
- 評議員會規程
- 第一條 本校ニ評議員五名ヲ置ク
- 第二條 評議員ハ教授ノ互選シタル者ニ就キ之ヲ命シ其任期ハ一學年間トス
- 第三條 學校長ニ於テ校務ニ關シ必要ト認めタルトキハ評議員會ヲ開キ其意見ヲ問フ
- 第四條 評議員會ハ評議員ヲ以テ之ヲ組織ス但シ必要ノ場合ニ於テハ評議員以外ノ

職員ヲモ列席セシム

職員服務心得

第一條 新任者ハ直ニ着任及住所届書ヲ差出スヘキコト

第二條 氏名族籍若クハ住所ヲ變更シ其他身分ニ異動ヲ生シ其ノ事項ノ履歷上ニ關係アルモノハ其都度届書ヲ差出スヘキコト

第三條 校務繁劇ノ場合又ハ上官ヨリ特 命セラレタルトキハ執務時間外又ハ休日ト雖モ執務スヘキコト

第四條 病氣其他已ムヲ得サル事故ニ依リ缺勤又ハ遅刻スルトキハ事由ヲ具シ當日午前八時以前ニ到達スル様書面ヲ以テ届出ツヘキコト若シ病氣ノ爲缺勤七日ヲ超ユルトキハ醫師ノ診断書ヲ添付スヘキコト

第五條 三大節、入學式、送別式、創立記念式其他臨時ニ舉行スル儀式又ハ特ニ登校スヘキ命ヲ受ケタル際病氣其他已ムヲ得サル事故ノ爲參列スル能ハサルトキハ事由ヲ具シ不參届書ヲ差出スヘキコト

第六條 三大節ニ高等官ヨリ奉呈スヘキ賀表ハ便宜上庶務課ヨリ之ヲ進達スルコト

第七條 三大節ニハ「フロックコート」「燕尾服又ハ紋付羽織袴」「シルクハット」又ハ黒山高帽ヲ着用スヘキコト特ニ指定シタル場合亦同シ

第八條 出張ヲ命セラレタルトキハ出發及歸校ノ際届書ヲ差出シ且歸校後七日以内ニ復命書ヲ差出スヘキコト但簡單ナル事項ハ口頭ヲ以テ復命スルコトヲ得

第九條 父母ノ祭日ニ休暇スルノ必要アルトキハ前日中ニ届書ヲ差出スヘキコト

第十條 服忌ヲ受クルトキハ其ノ親族關係ヲ記シ届書ヲ差出スヘキコト

第十一條 轉地療養、父母ノ病氣看護又ハ墓參ノ爲ニ賜暇ヲ請ヒ又ハ任地ヲ離レントスルトキハ豫定日數及行先地ヲ記シ書面ヲ以テ願出テ學校長ノ許可ヲ受クヘキコト

第十二條 教官ニシテ休業中旅行セントスルトキハ豫定日數及行先地ヲ記シ其都度出發前書面ヲ以テ届出ツヘキコト

教官以外ノ職員ニシテ賜暇中旅行セントスルトキモ亦同シ

第十三條 本務以外ノ職務ニ從事セントスルトキハ報酬ノ有無ニ拘ラス學校長ノ許可ヲ受クヘキコト

第十四條 近火其ノ他非常ノ事故アルトキハ速ニ登校シ上官ノ指揮ヲ受クヘキコト但至急ヲ要スルトキハ當直員ト協議シ臨機ノ處置ヲナスヘキコト

文書處理細則

第一條 本校ニ到達シタル文書ハ凡テ庶務課ニ於テ之ヲ接受シ直ニ文書件名簿ニ其ノ件名及番號ヲ記シ文書ニ受付番號ヲ付シ主掌分課ニ配付シ取扱者ノ認印ヲ徴スヘシ

二分課以上ニ關係アル文書ハ其ノ關係ノ重キニ從ヒ配付スヘシ書留ハ別ニ送付簿ニ記シ宛名人ノ認印ヲ徴スヘシ

第二條 文書ノ配付ヲ受ケタルトキハ各課ニ於テ遲滯ナク相當處理スヘシ

決裁済ノ文書ニシテ發送ヲ要スルモノハ淨書校合シ各課ニ備フル文書件名簿ニ依リ番號ヲ付シ其ノ議案書ヲ添ヘ庶務課ニ送付スルモノトス

庶務課ハ直ニ發送ノ手續ヲ了シ議案書ヲ當該課ニ返付スヘシ

校長印及校印ハ庶務課書記之ヲ押捺スルモノトス

第三條 議案書ニハ關係書類ヲ悉ク添付シテ其ノ顛末ヲ知り易カラシムヘシ

第四條 完結シタル文書ハ關係各課ニ於テ整理シ必要ノ期間之ヲ該課ニ保存スルモノトス

前項ノ文書ハ關係各課ニ於テ保存スルノ要ナキニ至リタルトキハ之ヲ庶務課ニ引繼クヘシ

宿直規程

第一條 宿直ハ庶務宿直及訓務宿直トス

第二條 本校判任官以下一名宛輪番ニ庶務宿直ニ服スヘシ

訓務課ニ勤務ヲ命セラレタル者ハ訓務宿直ニ服スヘシ

第三條 當直者病氣又ハ自己ノ都合ニ依リ宿直スルコト能ハサルトキハ代人ヲ立ツヘシ但シ特別ノ事由ニ依リ宿直ヲ免セラレタル者ハ此ノ限りニアラス

第四條 宿直時限ハ平日ニアリテハ當日退散時限ヨリ翌日出勤時限マテ休日ニアリ

テハ當日出勤時限ヨリ翌日出勤時限マテトス

第五條 當直者ニハ其前日マテニ庶務課ヨリ通知シ認印ヲ徴スヘシ

第六條 新任ノ者ハ着任ノ日ヨリ七日ヲ經テ宿直セシム

第七條 庶務宿直室ニ備フヘキ帳簿及器具等左ノ如シ

- 一 宿直名簿
- 一 宿直日誌
- 一 校務分掌規程
- 一 文書收受簿
- 一 文書交付簿
- 一 郵便切手受拂簿
- 一 職員住所簿
- 一 電信用語符號表
- 一 文書入
- 一 蠟燭燐寸受拂簿
- 一 郵便切手及端書

第八條 訓務宿直室ニ備フヘキ帳簿及器具等左ノ如シ

- 一 生徒名簿
- 一 宿直名簿

- 一 文書交付簿
- 一 宿直日誌
- 一 蠟燭燐寸受拂簿
- 一 文書入

第九條 宿直時間中ニ到達シタル文書及發送スヘキ文書ハ假ニ收受發送ノ手續ヲナ

シ翌日庶務課ニ引繼クヘシ

第十條 收受シタル文書中校長宛ノモノニシテ電報並至急ト表記シタル文書ハ直ニ

校長ニ送付シテ認印ヲ受ケ其他ノ文書ハ翌日庶務課ニ引繼クヘシ當日休日ナルト

キハ次ノ宿直者ニ引繼クヘシ

他ノ職員ニ宛テタル文書ハ前項ニ準シ取扱フヘシ

第十一條 宿直中ニ起リタル事件ハ總テ其ノ顛末ヲ日誌ニ記載シ庶務宿直ニアリテ

ハ庶務課ニ訓務宿直ニアリテハ訓務課ニ毎週一回提出シテ學校長ノ閱ニ供スヘシ

第十二條 宿直員ハ常ニ火ノ元其ノ他一般ノ取締ノ責ニ任シ日没後少クトモ二回校

舎内外ヲ巡視シ小使ヲモ巡視セシムヘシ

第十三條 宿直中ニ郵便切手及蠟燭等受拂ヲナシタルトキハ其ノ都度受拂簿ニ記入

スヘシ

物品會計規程細則

第一條 本校所屬物品ノ保管及出納ハ物品會計規則並文部省直轄各部物品會計規程ニ基キ此ノ細則ニ依リ處理スヘシ

第二條 物品ヲ大別シテ備品消耗品ニ分チ備品ノ用途ヲ專用共用ノ二種トス共用トハ各課及特別教室ニ於テ共用スルモノヲ云ヒ專用トハ職員各自ニ專用スルモノヲ云フ

但シ備品消耗品ノ區別ハ其ノ性質及用法ニ依リ之ヲ定ム

第三條 各課及特別教室ニ物品監守者及物品取扱主任ヲ置キ物品ノ監守及取扱ノ責ニ任シ專用品ニ就テハ專用者其ノ責ニ任セシム

但シ監守又ハ取扱ノ物品所屬區域ハ學校長之ヲ定ム

第四條 物品ノ出納ハ學校長ノ命令ニ依リ物品會計官吏之ヲ行フ

第五條 各課及特別教室ニ於テ所要ノ物品アルトキハ所定ノ物品請求用紙ニ品目數

量所要ノ事由等ヲ詳記シ各主任者ノ檢印ヲ受ケ會計課ニ差出スヘシ但シ圖書ニアルテハ圖書課ニ請求スルモノトス

第六條 學術上機械ノ製作及修理ニ特殊ノ注意ヲ要スルカ又ハ當業者ヲ選擇スル必要アルモノハ圖案及仕様書又ハ便宜上各課及特別教室等ニ於テ當業者ノ見積書ヲ徴シ(外國製品等ニシテ見積書ヲ徴スル能ハサルトキハ之カ調書ヲ添付シ)會計課ニ請求スヘシ

第七條 會計課及圖書課ニ於テ物品ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ圖書課ニ於テハ會計課ヲ經由シ物品會計官吏ヲ經テ學校長ニ提出シ受人及支給ノ命令ヲ受クヘシ

第八條 通常所用ノ物品ハ物品會計官吏ニ於テ一ケ年ノ所要高ヲ豫定シ學校長ノ許可ヲ受ク一回若クハ數回ニ取纏メ購入ノ手續ヲ爲シ之ヲ倉庫ニ藏置シ各課及特別教室ノ請求ニ應シ支給ノ手續ヲナスヘシ

第九條 生産又ハ寄贈ニ係ル物品ハ會計課ニ於テ其ノ品名數量及價格若クハ評價ヲ

付シ藏置若クハ支給ノ手續ヲナスヘシ

第十條 物品會計官吏ニ於テ受人シタル物品ヲ支給セントスルトキハ番號ヲ現品ニ付シ共用品ト專用品トニ別チ備品支給簿ニ登記シ消耗品ニアリテハ消耗品支給簿ニ登記シタル後之ヲ物品監守者又ハ物品取扱主任ニ配付シ受領ノ證トシテ帳簿ニ捺印セシメ若クハ別ニ領收證書ヲ徴スヘシ

第十一條 物品監守者又ハ物品取扱主任物品ヲ受領シタルトキハ直チニ備品監守簿又ハ消耗品受拂簿ニ記帳スヘシ

第十二條 各課及特別教室ニ於テ不用ニ屬シタル物品アルトキハ物品監守者又ハ物品取扱主任ハ速カニ物品會計官吏ニ返付ノ手續ヲナスヘシ

第十三條 物品會計官吏前條物品ノ返付ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ將來使用ノ見込アルモノハ保管ノ手續ヲナシ使用ノ見込ナシト認メタルモノハ處分案ヲ具シ學校長ノ裁決ヲ請フヘシ

第十四條 物品ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ物品監守者其ノ事實ヲ詳記シ物品會計

官吏ヲ經テ學校長ニ申報スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ物品檢閲委員ノ合議ヲ經テ學校長ノ裁定ヲ得責任者ヲシテ之ヲ修理セシメ又ハ代品若クハ相當代價ヲ辨償セシムルモノトス

第十五條 自然破毀ノ物品ニシテ修理ノ上使用ノ見込アルモノハ修理ヲ請求シ其ノ見込ナキモノハ返付ノ手續ヲナスヘシ

第十六條 物品監守者又ハ物品取扱主任交代シタルトキハ前任者後任者立會ノ上引繼ヲナシ備品監守簿又ハ消耗品受拂簿ニ受繼年月日ヲ記シ且ツ記名捺印スヘシ

第十七條 物品會計官吏ハ毎年一回以上各監守者並ニ物品取扱主任ニ就キ帳簿ト現品ヲ對照査閲シ異狀ヲ認メタルトキハ學校長ニ申報シ其處分ヲ求ムルコトヲ得

第十八條 物品ノ出納ヲ明確ナラシムル爲メ物品會計官吏ハ左ノ帳簿ヲ設ク之ヲ整理スヘシ

- 一 普通備品出納簿
- 一 機械標本類出納簿

一 圖書出納簿

證票ニ基キ物品ノ出納ヲ記入シ在庫及共用物品ノ現在ヲ明ニス

一 消耗品出納簿

證票ニ基キ物品ノ出納ヲ記入シ在庫及消費高ヲ明ニス

一 備品支給簿

命令文書ニ基キ支給シタル物品ヲ記入シ物品會計官吏ト物品監守者又ハ專用

者トノ受授ヲ明ニスルモノトス

一 消耗品支給簿

命令文書ニ基キ物品ヲ記入シ物品會計官吏ト物品取扱主任トノ受授ヲ明ニス

ルモノトス

第十九條 各課及各特別教室ニ於テハ備品監守簿、消耗品受拂簿及郵便切手受拂簿

ヲ備ヘテ物品ノ現存及受拂ヲ明確ナラシムヘシ但シ圖書ハ原簿ヲ以テ本簿ニ代用

スルコトヲ得

第二十條 學校長ハ物品檢閲ノ爲メ物品檢閲委員長一名委員若干名ヲ設ケ職員中ヨ

リ之ヲ命ス

物品檢閲委員長及委員ノ任期ハ一ケ年トス

第二十一條 檢閲ヲ分チテ定期及臨時ノ二トス

定期檢閲ハ毎年一回之ヲ施行シ臨時檢閲ハ必要ト認メタルトキ臨時ニ之ヲ施行ス

第二十二條 物品檢閲ノ時日ハ委員長之ヲ定メ豫メ各物品監守者及物品取扱主任ニ

通知スルモノトス但シ臨時ニ施行スルモノハ此ノ限ニアラス

第二十三條 物品檢閲委員ノ檢閲スヘキ要項左ノ如シ

一 物品保管ノ適否

一 物品亡失毀損ノ有無

一 物品ノ使用並消費ノ適否

一 其ノ他必要ト認メタル事項

第二十四條 物品檢閲ノ際ハ在庫ノ物品ニ就テハ物品會計官吏又ハ代理者使用中ノ

物品ニ就テハ物品監守者又ハ物品取扱主任其人席ニ列シテ檢閲ヲ受クヘシ
第二十五條 物品檢閲委員ニ於テ檢閲上故障ナシト認ムルトキハ帳簿ニ捺印シテ之ヲ證スヘシ若シ故障アルトキハ當該責任者ヨリ始末書ヲ差出サシノ處分了ルヲ俟チテ前記ノ手續ヲナスヘシ

第二十六條 物品檢閲委員其ノ檢閲ヲ終リタルトキハ檢閲上ノ顛末及意見ヲ具シ委員長ヲ經テ學校長ニ申報スヘシ
第二十七條 帳簿様式別記ノ通相定ム

(帳簿様式ハ略ス)

圖書監守使用規程

第一條 本校ノ圖書ハ總テ之ヲ書庫ニ藏メ圖書課員之ヲ監守ス

第二條 學校長ニ於テ必要アリト認メタル場合ニ於テハ圖書ノ一部ヲ閱覽室、教官室、特別教室又ハ事務室ニ備付ク
圖書備付ニ關スル内規ハ別ニ之ヲ定ム

第三條 閱覽室及教官室備付ノ圖書ハ圖書課員直接ニ之ヲ監守シ特別教室及事務室備付ノ圖書ハ當該教室及事務室ノ主任者圖書課員ニ代リテ之ヲ監守ノ責ニ任ス

第四條 書庫ハ特別ノ事情ニヨリ圖書課員ノ承認ヲ得タル者ヲ除クノ外之ニ出入スルコトヲ得ス
但シ教官ハ課員ニ通告ノ上自由ニ出入スルコトヲ得

第五條 書庫ニ入りテ圖書ヲ檢索スル者ハ決シテ其ノ函架ノ順位ヲ亂スコトヲ得ス

第六條 職員及生徒ハ別ニ定ムル所ノ圖書閱覽規程ニヨリ各自ノ閱覽室ニ於テ所要ノ圖書ヲ閱覽スルコトヲ得

第七條 職員ニシテ自宅其他閱覽室以外ニ圖書ヲ携出シテ之ヲ閱覽セントスル時ハ總テ圖書借用ノ手續ヲナスヲ要ス

第八條 圖書ヲ借用セントスル時ハ一定ノ借用證用紙ニ圖書名、函號、番號、冊數並ニ返納豫定日ヲ記入シ之ヲ係員ニ差出スヘシ

第九條 貴重圖書辭書事彙新着雜誌並ニ整理未完ノ圖書ハ特別ノ理由ニヨリテ學校

長ノ承認ヲ得タル場合ヲ除クノ外之ヲ借用スルコトヲ得ス
第十條 一時ニ借用シ得ヘキ圖書ハ教官ニ在リテハ七部十冊以內他ノ職員ニ在リテハ三部五冊以內トス

但シ同時ニ二種ノ學科ヲ擔當スル教官ニ在リテハ其ノ二倍マテヲ借用スルコトヲ得

第十一條 同一圖書ヲ引續キ借用シ得ヘキ期間ハ借用者自身ニ於テ出來得ル限り之ヲ長カラサラシメンコトニ留意スルヲ要ス

第十二條 同一圖書ノ借用期間カ三箇月ノ長キニ達シタル時ハ閱了ノ如何ニ關セス一先ツ之ヲ返納スヘシ

前項ノ圖書ニシテ其ノ際マテニ他ノ閱覽ヲ希望スル者ナキ場合ニ於テハ更ニ之ヲ續借スルコトヲ得

第十三條 一時ニ借用シ得ヘキ圖書ノ部數又ハ返納期日ニ就キテ特別ノ取扱ヲ受クルノ必要アル場合ニ於テハ其ノ都度理由ヲ具シテ學校長ノ承認ヲ受タルヲ要ス

第十四條 職員ハ自身ノ借用シタル圖書ヲ他人ニ轉貸スルコトヲ得ス

第十五條 借用中ノ圖書ヲ紛失又ハ汚損シタル場合ハ同一ノ代品ヲ以テ之ヲ辨償セシメ又ハ之ヲ修理セシム

第十六條 職員ハ毎年七月五日マテニ借用シタル圖書ノ全部ヲ返納スヘシ

第十七條 閱覽室、教官室、特別教室及事務室備付ノ圖書ハ毎年一回七月十日ヲ以テ之ヲ書庫ニ回收ス

第十八條 書庫ハ毎年夏季休業中ノカ整理ヲ行フ

書庫整理ノ際ハ圖書全部ト目錄又ハ圖書原簿ト、照合汚損圖書ノ修理又ハ廢棄紛失圖書ノ記錄及再調並ニ曝書及消毒ヲ行フ

圖書閱覽規程

第一條 本校圖書館内ニ職員圖書閱覽室及生徒圖書閱覽室ヲ設ク

第二條 閱覽室ハ左記ノ日ヲ除クノ外毎日午前八時半ヨリ午後八時半マテ之ヲ開ク但シ臨時變更ノ場合ハ其ノ都度之ヲ公示ス

- 一 日曜日
 - 一 祝日、祭日、式日
 - 一 自三月十六日至四月五日
 - 一 自七月十一日至九月五日
 - 一 自十二月二十五日至一月五日
- 第三條 圖書ヲ閱覽セムトスルトキハ圖書目錄ニ就キテ所要ノ圖書ヲ檢索シ圖書課員ノ手ヲ經テ之ヲ借受ケ各自ノ閱覽室ニ於テ閱覽スヘシ但シ教官ハ書庫ニ入りテ自ラ圖書ヲ檢索スルコトヲ得
- 第四條 閱覽ノ爲ニ同時ニ借受ケタルヲ得ヘキ圖書ハ三部五冊以内トス但シ職員カ研究又ハ取調上必要アル場合ハ此ノ制限ヲ要セス
- 第五條 閱覽ヲ了リタル圖書ハ速ニ返納スヘシ
- 第六條 借受ケタル圖書ハ直接ニ他人ニ轉貸スルコトヲ得ス
- 第七條 閱覽室備付ノ圖書ハ指定ノ位置ニ於テ自由ニ之ヲ使用スルコトヲ得

第八條 圖書ハ閱覽室備付ノモノハ勿論自己ノ借受ケタルモノト雖モ總テ之ヲ館外ニ携出スルコトヲ得ス

第九條 生徒閱覽室ニ出入スルトキハ必ス入館票ヲ携帯シ在館中之ヲ係員ニ預置クヘシ

入館票ハ各學年毎ニ之ヲ更訂シ圖書課ヲ經テ之ヲ生徒ニ交付ス

第十條 生徒閱覽室ニ於テハ左ノ條項ヲ確守スヘシ

- 一 制服着用若シクハ和服着袴ノコト
- 二 上草履使用又ハ跣足ノコト
- 三 音讀、談話、喫煙、粗暴ノ動作等ヲ爲ササルコト

第十一條 閱覽中ノ圖書ヲ紛失又ハ汚損シタル場合ハ同一ノ代品ヲ以テ之ヲ辨償セシメ又ハ之ヲ修理セシム

第十二條 本規程ニ背戾シ又ハ係員ノ注意ニ應セサル時ハ事情ニヨリ期ヲ限リテ圖書ノ閱覽ヲ停止ス

警備規程

第一條 校内失火又ハ近火ノ際之ヲ認メタル者ハ直チニ非常號鐘ヲ以テ報シ退校後及夜間ハ特ニ寄宿寮及事務當直ニ知ラスヘシ

第二條 校内失火ノ際ハ職員以下現場ニ駆付ケ左ノ任務ニ從事スヘシ

- 一 非常信號 時鐘ヲ繼續亂打ス
- 二 報知 學校長、各課長、生徒監、警察署ニ報知スヘシ
- 三 消防 消火器唧筒其他適當ノ方法ニヨルヘシ
- 四 運搬 各室内非常持退ノ印アルモノ圖書、機械、標本等
- 五 警備 消防應援者ノ外安リニ構内ニ入ラシメサルコト

搬出品ヲ監守スルコト

第三條 寄宿寮生ヲ以テ生徒消防隊ヲ編成シ役員部屬ハ學年ノ初ニ於テ生徒監之ヲ定ム

第四條 通學生ハ生徒消防隊ヲ援助シ臨機適當ノ任務ニ從事スヘシ

職員

(大正十四年七月十日現在)

學校長

文學士 渡邊又次郎

教授

評議員 文學士 村上龍英

生徒監 池田嘉吉

評議員 文學士 皆川正禧

評議員 文學士 小牧健夫

評議員 文學士 四野宮豐治

評議員 文學士 栗原武一郎

文學士 西川五郎

文學士 岡村喜代志

文學士 山田伊三郎

漢文 教授

圖畫 教授

英語 (主任)

獨語 (主任)

物理 教授

國語 (主任)

地理、歷史 (主任)

修身 教授

哲學概說、獨語 教授

陸軍歩兵少佐

多治見國司

理學士

野村正雄

地質及鑛物

富樫鐵次郎

柔道

岡野源次郎

漢文

文學士

伊藤法準

體操

首藤直

助教授

物理、數學

橫澤忠雄

書記

岡本耀

中川英一

樋口由之助

東郷整

事務囑託

島田勝太郎

雇

三村舉知

入佐文夫

長山辰美

永藤新吉

助手

鳥羽田卓

朝野虎治

大岩誠

大津寅

千葉醫學士

學級主任

文科第三學年甲ノ一學級
 文科第三學年甲ノ二學級
 文科第三學年乙學級
 理科第三學年甲學級
 理科第三學年乙學級
 文科第二學年甲ノ一學級
 文科第二學年甲ノ二學級
 文科第二學年乙學級
 理科第二學年甲學級
 理科第二學年乙學級
 文科第一學年甲ノ一學級
 文科第一學年甲ノ二學級

教授 山田伊三郎
 教授 西川五郎
 教授 皆川正藏
 教授 倉橋治助
 教授 小牧健夫
 教授 栗原武一郎
 教授 清水谷隆寬
 教授 吉田良次
 教授 菊池一
 教授 四野宮豐治
 教授 長谷川四郎
 教授 內藤珍麿

文科第一學年乙學級
 理科第一學年甲學級
 理科第一學年乙學級

教務課

課長

教授 佐藤省吾
 教授 野原茂六
 教授 相馬馬良

課長
 訓教課
 生徒監

教授 村上龍英
 教授 生沼豐彦
 書記 東郷整
 雇 永藤新吉
 教授 池田嘉吉
 教授 木宮泰彦
 嘱託 富堅鐵次郎

(兼)

講師 岡野源次郎

(兼)

書記 中川英一

圖書課

書記 高山常雄

課長

嘱託 島田勝太郎

(兼)

雇 入佐文夫

庶務課

助手 朝野虎治

課長

教授 岡村喜代志

書記 樋口由之助

(兼)

雇 三村舉知

會計課

課長

物品會計官吏

書記 岡本耀

書記 横地恭二郎

雇 三村舉知

雇 入佐文夫

雇 長山辰美

生徒 (五十音順)

(大正十四年七月一日現在)

文科第三學年甲ノ一學級

(三十七人)

氏名ノ上段ハ出身學校名下段ハ本籍府縣名ノ略稱
 ◎印ハ學級總代 ○印ハ副總代

喜多方	安部慎一	福島	錦城	加藤雅吉	千葉
水戸	池田政彦	鹿兒島	芝堀	圭之介	東京
横須賀	石渡健吉	神奈川	東京第四	川崎眞次郎	東京
都留	岩佐英	山梨	明治	川手謙二	東京
日本大學中學	内田英二	茨城	栃木	吉光寺秀夫	栃木
東京第一	小畑年太郎	東京	水戸	小泉安男	茨城
東京第一	小貫頼慶	秋田	第一神戶	小林剛	茨城
土浦	大塚讓三郎	茨城	眞岡	篠崎武雄	栃木
宇都宮	加藤静夫	栃木	東京第四	莊田武雄	岡山

相馬	荒井正巳	福島	相馬	荒井正巳	福島
榊太	乘富丈夫	福岡	榊太	乘富丈夫	福岡
東京第一	鳥山勝	東京	東京第一	鳥山勝	東京
高崎	戶塚仁一	群馬	高崎	戶塚仁一	群馬
大多喜	鶴岡隆	千葉	大多喜	鶴岡隆	千葉
水戸	楯石民雄	茨城	水戸	楯石民雄	茨城
龍ヶ崎	◎高橋威夫	茨城	龍ヶ崎	◎高橋威夫	茨城
栃木(檢定)	田中	山口	栃木(檢定)	田中	山口
麻布	◎田中勝介	東京	麻布	◎田中勝介	東京
千葉	鈴木斗人	千葉	千葉	鈴木斗人	千葉
安房	須藤文雄	千葉	安房	須藤文雄	千葉

文科第三學年甲ノ二學級

高輪	長谷川孝	東京	高輪	長谷川孝	東京
東京第三	濱彌太郎	茨城	東京第三	濱彌太郎	茨城
東京第四	阪勘造	愛知	東京第四	阪勘造	愛知
臺北第一	堀内政成	岩手	臺北第一	堀内政成	岩手
佐倉	松沼平八郎	千葉	佐倉	松沼平八郎	千葉
早稻田	松本孝四郎	東京	早稻田	松本孝四郎	東京
開成	三浦義文	東京	開成	三浦義文	東京
厚木	三樹量平	神奈川	厚木	三樹量平	神奈川
錦城	八木光表	東京	錦城	八木光表	東京
錦城	井田實	東京	錦城	井田實	東京

(三十八人)

大	成	市原泰二郎	千葉	大	成	市原泰二郎	千葉
開	成	内田弘文	東京	開	成	内田弘文	東京
成	城	大久保清次	東京	成	城	大久保清次	東京
大田	原	大島清七	栃木	大田	原	大島清七	栃木
宇都宮	大塚辰雄	栃木	宇都宮	大塚辰雄	栃木	宇都宮	大塚辰雄
東京第四	大原寛	東京	東京第四	大原寛	東京	東京第四	大原寛
開	成	◎加藤寛一	東京	開	成	◎加藤寛一	東京
開	成	加藤武	富山	開	成	加藤武	富山
土浦	片岡于治	茨城	土浦	片岡于治	茨城	土浦	片岡于治
東京第一	梶浦俊夫	愛知	東京第一	梶浦俊夫	愛知	東京第一	梶浦俊夫
千葉	金子利一	千葉	千葉	金子利一	千葉	千葉	金子利一
水戸	神永三千三	茨城	水戸	神永三千三	茨城	水戸	神永三千三
水戸	川崎勝世	茨城	水戸	川崎勝世	茨城	水戸	川崎勝世

錦城	木村秀崇	宮城	錦城	木村秀崇	宮城
東京第四	軍司武	茨城	東京第四	軍司武	茨城
宇都宮	古口英男	栃木	宇都宮	古口英男	栃木
第一横濱	◎小島一雄	愛知	第一横濱	◎小島一雄	愛知
水戸	笹島菊次郎	茨城	水戸	笹島菊次郎	茨城
栃木	鹽澤信濃	栃木	栃木	鹽澤信濃	栃木
東京第一	田中陽太郎	東京	東京第一	田中陽太郎	東京
高千穂	高洲紀雄	東京	高千穂	高洲紀雄	東京
京華	高橋茂	福島	京華	高橋茂	福島
下妻	鶴見誠	茨城	下妻	鶴見誠	茨城
宇都宮	手塚源夫	栃木	宇都宮	手塚源夫	栃木
東京第一	中川晃成	新潟	東京第一	中川晃成	新潟
麻布	成島英美	山梨	麻布	成島英美	山梨

水戸	西川	實	茨城
伊丹	福島	嘉雄	兵庫
神奈川	松本	乃武雄	東京
麻布	丸山	眞壽夫	山梨
明治	宮崎	浩	東京
喜多方	伊關	慶一	福島
小田原	伊藤	鶴治	神奈川
東京第一	出永	太郎	東京
眞岡	枝源	市	茨城
水戸	海老澤	迪雄	茨城
豊橋	大谷	道雄	愛知

文科第三學年乙學級

京北	村上	一郎	山口
前橋	柳井	堯夫	群馬
東京第二	山崎	常盤	東京
佐渡	吉澤	孝治郎	新潟
横須賀	若命	善衛	神奈川
高千穂	加藤	英雄	東京
麻布	片山	巍	東京
水戸	川又	勇三郎	茨城
熊谷	河端	丙馬	埼玉
東京第一	○北村	郁三郎	東京
大村	久保	義之	長崎

(三十六人)

東京高師附屬	小池	辰雄	東京
太田	小林	繁次郎	茨城
名教	小林	二郎	山梨
田邊	小早川	美樹	和歌山
東京第二	齋藤	大助	東京
麻布	島田	保忠	兵庫
佐野	須永	正雄	栃木
平壤	鈴木	沙奈夫	千葉
攻玉社	住吉	他人登	廣嶋
柏壁	關	信美	埼玉
返子開成	◎高橋	良助	神奈川
青森	武井	一雄	大阪
東京高師附屬	武井	禮介	愛媛

第二横濱	戸部	幾三	神奈川
郁文館	苦米	地俊之	長野
下妻	鳩貝	榮一郎	茨城
水戸	平山	久	千葉
第二横濱	間宮	禎一	神奈川
麻布	松濤	誠廉	東京
日本	松本	金壽	栃木
熊谷	南	與之	埼玉
岸和田	峰間	信太郎	東京
早稻田	村井	勇吾	東京
曉星	矢野	二郎	奈良
東京第一	横山	靖	高知
岩國	目加田	誠	山口

理科第三學年甲學級

水海道	荒井力	茨城
東京高師附屬	安東新午	東京
東京第三	伊東菊郎	東京
太田	伊藤正誼	茨城
水戸	乾詮七郎	茨城
仙臺第一(檢定)	今川三郎	茨城
栃木	岩間旭	東京
水戸	潮田勝一	茨城
水戸	海野國壽	茨城
第一橫濱	大川博雄	長野
水戸	片岡洛三	茨城

(三十八人)

今治	河上繁雄	愛媛
太田	木村順	茨城
水戸	國分一孝	茨城
土浦	佐久間文忠	福島
東京高師附屬	佐竹義利	東京
海城	篠島直雄	東京
栃木	白石孝次	栃木
東京第四	新莊彦三	東京
京華	須藤成一郎	東京
佐原	須之内文雄	茨城
早稻田	杉豐	東京

理科第三學年乙學級

水戸	鈴木菊男	茨城
東京	芹澤孝三	東京
正則	玉置巖	東京
青山學院	團勝磨	東京
水戸	千葉公雄	茨城
開成	谷村義一	東京
村上	富樫文也	新潟
芝	萩原康雄	山梨
水戸	青木伸	茨城
木更津	有原康次	千葉
東京第一	井村恒郎	茨城

(三十六人)

水戸	濱田成達	茨城
札幌第二	逸見行雄	北海道
葦山	保土田春雄	静岡
水海道	堀越二郎	茨城
東京高師附屬	増澤五六	東京
東京第三	松尾琢之	兵庫
宇都宮	山縣東一	栃木
第一橫濱	横山哲雄	神奈川
立教	飯田利雄	東京
安房	石井泰藏	千葉
佐原	磯山義	茨城

逗子開成	鈴木實之介	東京	錦城	半田不二夫	神奈川
東京第四	關谷清	山口	東京第四	平野亮一郎	長野
海城	田爪英雄	東京	逗子開成	廣瀬善四郎	東京
水戸	田土部勝徳	茨城	水戸	藤咲博	茨城
佐野	田村啓七	栃木	大多喜	藤平廣吉	千葉
磐城	千葉成夫	福島	錦城	藤本重一	茨城
水海道	富澤隆一郎	茨城	東京第四	馬淵威雄	兵庫
水海道	中島盛三	茨城	横濱第二	三浦利定	神奈川
宇都宮	永島寛一	栃木	磐城	諸橋敬一郎	福島
東京第五	新井田秀松	北海道	東京第四	山中章	山梨
水戸	萩谷健彦	茨城	第一横濱	山本清	奈神川

文科第二學年甲ノ二學級

(四十一人)

宇都宮	新江泰	栃木	烏山	五味淵壽	栃木
大町	伊藤政雄	長野	佐倉	澤井文雄	千葉
和歌山	飯塚俊雄	福岡	東京第四	所澤義夫	長野
宇都宮	○池野清躬	栃木	東京高師附屬	杉浦勝郎	東京
正則	梅崎秀雄	東京	相馬	◎鈴木健藏	福島
麻布	小花和武夫	東京	木更津	鈴木幸	千葉
高松	大橋壽	香川	盛岡	關市昌	岩手
宇都宮	岡田浩治	栃木	土浦	田上元徳	茨城
粕壁	門井一郎	埼玉	新潟	田村基一	新潟
東京第一	川口正	東京	宇都宮	谷口昇	栃木
第一横濱	木村源四郎	神奈川	村上	中村善一	新潟
水戸	小坪洋	茨城	八戸	西村平八郎	青森
東京高師附屬	兒島英二	岡山	麻布	丹羽喬四郎	東京

水 月 ○若松 光英 茨城 攻玉社(檢定) 渡貫 約 茨城

理科第二學年甲學級

(三十八人)

成	淺羽 三郎	東京
東京高師附屬	◎相島 敏夫	東京
水	荒川 恭三	茨城
開	飯島 金藏	東京
水	石川 正文	山形
太	石川 義次	栃木
水	稲葉 三男	茨城
水	小貫 道世	茨城
水	寬 武夫	茨城
京	華 ○河合 健次	東京
第二橫濱	木島 平八郎	神奈川
安	積 歸山 亮	福井
水	小澤 俊夫	茨城
水	小島 君一	栃木
水	後藤 勝三	茨城
東京第四	佐野 章二	岡山
東京第一	清水 四郎	東京
東京第四	末次 幸雄	佐賀
開	成 杉野 榮二	東京
函	館 田野 孝三	北海道

理科第二學年乙學級

(四十二人)

千	高橋 武夫	千葉
長	生 土田 恂一	千葉
成	東 土屋 忠光	千葉
上	田 寺田 智	長野
早	稻 田 時野 谷暢	茨城
東京第四	利根 忠義	東京
佐	倉 西郡 久之助	千葉
土	浦 福田 泰一	東京
相	馬 福原 正	福島
獨逸協會	足立 德	東京
土	浦 井川 俊一	茨城
東京第四	細見 尙雄	東京
第二橫濱	間宮 清二	神奈川
大	田 原 益子 幾造	栃木
開	成 山岡 包郎	三重
水	戶 山住 嘉宣	茨城
第一橫濱	山本 唯介	神奈川
開	成 山脇 真橋	大阪
第一橫濱	橫山 尊雄	神奈川
石	川 渡邊 寬次	福島
千	葉 伊藤 卓三	千葉
水	戶 飯野 澄	茨城

小田原	石井昇平	神奈川	鳥山	佐藤昇	栃木
土浦	岩瀬真一郎	茨城	安積	酒井講和	福島
水戸	小蘭江達雄	茨城	相馬	坂本麟平	福島
大多喜	尾本勝司	千葉	成東	篠口捷四郎	千葉
水戸	○大貫義隆	茨城	東京第五	島田美夫	福井
郁文館	大森加以知	茨城	東京第四	所澤政夫	長野
佐倉	岡谷勝利	千葉	水戸	住吉勝也	北海道
東京第一	加瀬功	千葉	上田	世木茂	山口
川越	金子正信	埼玉	宇都宮	田野邊富藏	栃木
下妻	國府田次郎	茨城	水戸	高橋龍起	茨城
千葉	金坂喜男	千葉	水戸	竹若筑紫	茨城
群馬	近藤富三郎	群馬	水戸	飛田義之介	茨城
大成	幸治敏	千葉	水戸	富田恭	茨城

宇都宮	沼尾義精	栃木	磐城	正本信功	福島
佐原	◎野平藤雄	千葉	東京高師附屬	三宅仁	東京
東京	畑勳	東京	水戸	山本信英	茨城
水戸	林薫	埼玉	眞岡	湯淺直己	東京
木更津	藤代善次郎	千葉	長岡	若菜三郎	千葉
村上	細野佑一	新潟			

文科第一學年甲ノ一學級

(四十人)

喜多方	相原博	福島	龍ヶ崎	飯田輝太郎	茨城
東京第四	秋上勳	東京	宇都宮	池野愛邦	栃木
東京第四	淺井一彦	福井	栃木	◎石塚新次	栃木
小田原	淺田真二	神奈川	下妻	稻葉信之	茨城
東京第四	伊藤良香	岐阜	土浦	色川善助	茨城

水戸	植崎茂樹	茨城	水戸	袖山左京	茨城
開成	小田健男子	東京	前橋	田村專之助	群馬
太田	大内正巳	茨城	千葉	高山喜代志	千葉
麻布	鐘夕江晴夫	東京	木更津	竹内正夫	千葉
東京第五	上村末雄	東京	水戸	寺沼政雄	茨城
大田原	菊池憲太郎	栃木	東京第五	内藤浩次	東京
字都宮	倉井利正	栃木	高千穂	中島元男	栃木
會津	○黑河内康孝	福島	水戸	永井十四男	茨城
前橋	小島信一	群馬	郁文館	西田保	三重
盛岡	佐藤大助	岩手	麻布	登坂達夫	山形
横濱第一	佐藤正樹	神奈川	水戸	橋本成文	茨城
前橋	齋藤延雄	群馬	海城	布施榮三郎	茨城
台北第一	島浦精二	大阪	下妻	星野金吾	茨城

早稻田	森本太真夫	愛媛	水海道	吉葉誠之	茨城
早稻田	山田幹一	佐賀	大田原	渡邊茂雄	栃木

文科第一學年甲ノ二學級

(四十人)

早稻田	阿部利行	東京	東京第四	○大河内一雄	廣島
横須賀	相澤新太郎	神奈川	京北	大野用高	鹿兒島
下妻	赤城正武	茨城	水戸	大島末夫	茨城
栃木	荒川平三郎	栃木	桐生	荻野英男	群馬
宇都宮	池田良成	栃木	長岡	蕪木元資	新潟
臺北第一	◎石渡達夫	神奈川	關西學院	木佐森吉太郎	神奈川
開成	板倉秀雄	東京	盛岡	木村靖比古	岩手
曉星	小笠原光忠	東京	水戸	栗田久成	茨城
喜多方	小原喜介	福島	東京第一	黑澤龍雄	東京

宇都宮	明治	宇都宮	早稻田	龍崎	東京第五(檢定)	京北	水戸	磐城	宇都宮	龍崎
結束進一	近藤	佐藤正幸	杉榮	鈴木猷吉	鈴木傳三郎	蘭兼之	田口斌男	立原一夫	東原繁次	中山真
茨城	千葉	栃木	東京	茨城	福島	東京	茨城	福島	栃木	茨城

仙台第二	宇都宮	東京第四	聖學院	聖學院	東京高師附屬	安房	宇都宮	水戸	新發田	東京第一
野崎正良	野中	早川正武	林卓郎	平塚益德	深作守文	水田三喜男	柳田啓兵衛	山越滋	山田孝	山根勝亮
埼玉	栃木	東京	福島	茨城	茨城	千葉	栃木	長野	茨城	東京

文科第一學年乙學級

(三十九人)

水戸	眞岡	札幌第一	土浦	宇都宮	東京幼年學校	麻布	高輪	開成	米澤	佐野	青山學院
秋山照	石井榮	石澤守雄	磯山利雄	岩淵憲次郎	宇都宮德馬	江見千尋	榎本敏	小澤豐	金子安雄	川田金造	小財三郎
茨城	栃木	北海道	茨城	栃木	東京	新潟	神奈川	靜岡	東京	山形	滋賀

東京高師附屬	札幌第一	眞岡	水戸	水戸	太田	安積	盛岡(檢定)	目白	安房	東京	熊本	千葉
西園寺二郎	齊藤重行	酒井昌一郎	坂塲庸正	島田力	鈴木專之介	薄田司	關三郎	手塚一郎	寺澤修	中川韓治郎	中村忠良	新山義雄
東京	新潟	茨城	茨城	茨城	茨城	福島	岩手	茨城	千葉	東京	熊本	茨城

鶴岡	野尻義正	山形	成蹊	三淵乾太郎	福島
錦城	服部 藹	岡山	熊谷	森田茂三郎	埼玉
東京高師附屬	春山泰雄	新潟	水戸	師岡健四郎	茨城
柏原	本庄久雄	兵庫	横濱第一	山下平四郎	神奈川
佐原	前野敏夫	茨城	順天	横山新一	東京
横手	松川吉治	秋田	海城	渡部正三	秋田
東京第四	松山史郎	滋賀			
水戸	青山智裔	茨城	木更津	岩崎宏	千葉
開成	有馬純信	鹿兒島	龍ヶ崎	植竹 蔚	茨城
飯田◎	井口益穂	長野	佐倉	牛山信弘	長野
土浦	稻葉徹郎	茨城	佐倉	小野 聰	千葉

理科第一學年甲學級

(四十人)

東京第四	小野義雄	茨城	水海道	坂野清	茨城
東京第四	大河内清一	東京	麻布	島津久敬	宮崎
東京第五○	大島良男	東京	明治	須田壽雄	新潟
東京第四	岡田秀夫	大阪	前橋	關 雅雄	群馬
東京高師附屬	岡田 實	千葉	東京第五	高島武雄	東京
東京第四	奥山 隆	兵庫	慶應普通部	高野忠孝	山口
宇都宮商	加藤武四	栃木	佐野	寺岡恭次郎	栃木
伊奈	河野政治	長野	東京第一	徳岡三郎	鳥取
麻布	桐谷一男	鳥取	水戸	廣瀬三郎	茨城
青山學院	久能 勇	東京	東京第五	廣瀬信衛	廣島
成東	小關二郎	千葉	麻布	藤井 肇	東京
東京高師附屬	後藤和信	茨城	水戸	細谷資英	茨城
龍山	越川善明	東京	土浦	堀越真一郎	茨城

八 戶 三 浦 清 青 森
 東京第四 宮 尾 知 男 東 京
 東京第四 室 井 常 武 新 潟

理科第一學年乙學級

水 海 道 秋 田 宗 次 茨 城
 水 戶 荒 井 醇 茨 城
 東京第一 池 田 衛 東 京
 水 戶 石 川 俊 文 茨 城
 佐 野 ○ 石 倉 豐 吉 栃 木
 大 田 原 石 崎 昇 栃 木
 水 戶 江 幡 廣 松 茨 城
 水 戶 小 宅 任 茨 城

太 田 山 田 卓 次 茨 城
 水 戶 山 本 信 公 茨 城
 東京第四 吉 原 義 雄 東 京

(四十人)

水 海 道 大 竹 巖 茨 城
 開 成 大 谷 甫 千 葉
 太 田 大 津 正 雄 茨 城
 水 戶 岡 村 道 一 佐 賀
 栃 木 柏 戶 貞 一 栃 木
 眞 岡 龜 谷 良 雄 栃 木
 水 戶 川 瀬 二 郎 茨 城
 東京第四 木 田 策 郎 宮 城

群 馬 太 田 菊 地 啓 司 栃 木
 東京高師附屬 近 藤 臺 五 郎 東 京
 群 馬 太 田 齋 藤 驛 群 馬
 水 戶 齋 藤 良 三 東 京
 開 成 境 眞 三 東 京
 明 治 坂 野 薰 神 奈 川
 京 都 第 二 清 水 英 彦 三 重
 佐 倉 椎 名 富 千 葉
 上 浦 柴 沼 忠 三 茨 城
 水 戶 島 村 正 久 埼 玉
 錦 城 鋤 柄 秀 一 千 葉
 水 戶 鈴 木 愛 介 茨 城

水 戶 高 安 孝 雄 茨 城
 開 成 鶴 田 孝 佐 賀
 土 浦 中 島 清 茨 城
 川 越 長 谷 部 俊 連 埼 玉
 高 津 平 本 義 典 茨 城
 千 葉 藤 井 謙 二 廣 島
 東京高師附屬 眞 鍋 良 一 東 京
 東京第四 三 村 善 雄 新 潟
 東京高師附屬 ◎ 森 武 保 東 京
 東京第五 森 田 桂 次 新 潟
 佐 原 山 本 新 之 助 茨 城
 遠 野 米 谷 理 平 岩 手

群	埼玉	新潟	長崎
桐太高前 計	柏川熊 計	村新佐長新 計	大
生田崎橋	壁越谷	上田渡岡湯	村
七 一 二 四	二 一 一	二 一 一	
二 二	二 一 一	四 二 一 一	
三 一 二	四 一 一 二	三 一 二	一
一 一 四 一 六	八 二 三 三	九 三 一 二 二 一	一
茨城	千葉		
水龍太下土水 計	長大安木成大佐佐千 計		
海道崎田妻浦戸	生成房津東喜倉原葉		
四八 四 四 四 三 六 二七	一三 二 二 一 三 二 三		
四三 四 一 一 二 七 二八	一七 一 一 二 三 二 三 一 四		
三九 四 一 四 二 三 二五	一五 一 二 二 一 一 三 三 二		
一三 一 二 六 九 七 一六 八〇	四五 一 二 四 六 五 三 九 六 九		

大阪	京都	東京												
堺	京都第二	慶應普通部	青山學院	名教	日本大學附屬	明治大學附屬	成蹊	日白	高千穗	聖學院	高輪	芝城	海城	曉星
	一	七五	一 二		三	一 一	一 二	一 二	一 二	一 二	一 二	一 二	一 二	一 二
		六七	一 一		三	一								
		七四	一 一		四		二	二	一 二	一 二	一 二	一 二	一 二	一 二
	一	二六	二 三	二 一	〇	二 一	三 二	二 二	二 二	二 二	二 二	二 二	二 二	二 二
兵庫	川神奈					大阪								
伊柏第一 計	關東學院	逕子開成	横須賀	厚木	小田原	第一橫濱	第一橫濱	高津	岸和田	天王寺				
丹原戸	計	成	賀	木	原	濱	濱	津	田	寺				
一	五	一	一	一	一	二	二	一	一	一				
	一三	二			一 四 六			一	一	一				
二	一	一	一	一	一 二 四			二	一	一				
三	一	一	一	一	一 三 四 一 三 六 二			四	一	一				

山和歌	山口	秋田	山形	青森	
田和歌	長岩	横	米鶴	八青	計
邊山	府國	手	澤岡	戸森	
		一	二 一 一	一 一	四
	一 一			一 一	三
	一 一			一 一	
	二 一 一	一	二 一 一	三 二 一	七

合	朝鮮	樺太	台灣	熊本	福岡	愛媛	香川	
計	龍平	樺	臺北第一	熊	小	今	高	計
	山壤	太		本	倉	治	松	
一九九	一 一		二	一				
一九五					一		一	一
一八七	一	一	一			一		一
五八一	二 一 一	一	三	一	一	一	一	二

長野	山梨	静岡	愛知	栃木
上大	都	豆 韭	豐	宇 烏 大 栃 佐 眞 宇
田町	留	計 陽 山	橋	都 宮 商業 山 原 木 野 岡 宮
				計 一 三 三 三 三 九
二 一	一	一 一		二〇 三 一 四 一 二 九
	一	一 一	一	一五 一 五 二 二 五
二 一	二	二 一 一	一	五七 一 三 五 二 六 七 二 三

岩手	福嶋	宮城	長野
遠 一 盛	石 喜 會 相 磐 安	仙 仙	伊 飯
野 關 岡	計 多 川 方 津 馬 城 積	計 臺 臺 第一 第二	計 那 田
一 三	五 二 一 一 一	一 一	二 一 一
一 二	一〇 二 三 三 二		四 一
	五 二 一 二	一 一	
一 一 五	二〇 二 四 一 四 六 三	二 一 一	六 一 二

東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東
文	法	經	法	法	法	法	法	法	法	法	法	法	法	法	法	法	法	法	法	法
大	大	伊	秋	安	安	安	安	安	安	安	安	安	安	安	安	安	安	安	安	安
槻	津	藤	永	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島
春	正	進	英	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
彦	次		七	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎
東	茨	千	茨	茨	茨	茨	茨	茨	茨	茨	茨	茨	茨	茨	茨	茨	茨	茨	茨	茨
京	城	葉	城	城	城	城	城	城	城	城	城	城	城	城	城	城	城	城	城	城

文科乙類

東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東
法	經	經	法	法	法	法	法	法	法	法	法	法	法	法	法	法	法	法	法	法
勝	榊	產	小	狩	狩	狩	狩	狩	狩	狩	狩	狩	狩	狩	狩	狩	狩	狩	狩	狩
田	原	間	泉	谷	谷	谷	谷	谷	谷	谷	谷	谷	谷	谷	谷	谷	谷	谷	谷	谷
二	虎	策	彌	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸
郎	彦	郎	六	知	知	知	知	知	知	知	知	知	知	知	知	知	知	知	知	知
兵	神	千	千	茨	茨	茨	茨	茨	茨	茨	茨	茨	茨	茨	茨	茨	茨	茨	茨	茨
庫	奈	葉	葉	城	城	城	城	城	城	城	城	城	城	城	城	城	城	城	城	城
	川																			

(二十九人)

東	東	千	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東
工	法	醫	文	法	文	經	文	法	文	法	文	法	文	法	文	法	文	法	文	法
蘆	廣	長	中	長	土	千	瀧	高	瀨	瀨	高	瀧	高	瀨	高	瀧	高	瀧	高	瀧
川	部	谷	島	坂	屋	葉	澤	橋	之	之	橋	之	橋	之	之	橋	之	之	橋	之
正	忠	川	元	勝	千	征	俊	德	口	口	德	口	德	口	口	德	口	口	德	口
信	彦	信	德	一	春	露	郎	樹	虎	虎	樹	虎	樹	虎	虎	樹	虎	虎	樹	虎
茨	千	青	群	東	福	神	長	福	鹿	鹿	福	鹿	福	鹿	鹿	福	鹿	鹿	福	鹿
城	葉	森	馬	京	岡	奈	野	嶋	兒	兒	嶋	鹿	嶋	鹿	鹿	嶋	鹿	鹿	嶋	鹿

理科甲類

東	東	千	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東
工	法	醫	法	文	經	法	經	法	法	法	法	法	法	法	法	法	法	法	法	法
石	渡	吉	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山
井	邊	原	中	下	崎	口	宮	宮	宮	宮	宮	宮	宮	宮	宮	宮	宮	宮	宮	宮
鈞	周	真	舜	清	昂	米	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本
三			次			丸	越	越	越	越	越	越	越	越	越	越	越	越	越	越
茨	東	茨	茨	北	千	神	千	千	茨	茨	千	千	千	千	千	千	千	千	千	千
城	京	城	城	海	葉	奈	葉	葉	城	城	葉	葉	葉	葉	葉	葉	葉	葉	葉	葉
				道		川														

(二十七名)

東經 橫田憲喜 愛知
東文 若見一郎太 長崎

京法 脇田愛之助 大阪
東北法文 渡邊存所 茨城

理科甲類

(二十七名)

東農 青木勝治 神奈川
東理 赤堀英三 群馬
東農 荒井元 茨城
京經 伊藤正二 北海道
京工 池澤保 兵庫
東工 池田金三 茨城
東農 石井坦 神奈川
東農 岩崎勝直 東京
東工 遠藤徹治 東京

東醫 大村重光 東京
東理 神谷鍾吉 茨城
東理 鹽原三郎 群馬
東農 須崎進二 東京
東醫 鈴木重大 東京
東醫 隅田七郎 神奈川
東工 關根三郎 埼玉
東農 立川辰之介 茨城
東工 中西篤 和歌山

東工 野手悌士 茨城
東工 羽賀正義 新潟
東工 檜山徳次 茨城
東工 平野生三郎 東京
京文 藤田幸隆 北海道

東工 古谷寅雄 東京
東工 松平日出男 東京
東工 松本厚 群馬
東工 山崎久一 栃木

理科乙類

(三十七名)

東北醫 猪狩正雄 福島
京農 井出七郎 静岡
東醫 井上與惣一 京都
千醫 飯野鎮雄 東京
九醫 石島勝郎 茨城
千醫 江尻伊三郎 福島

東工 大柴俊一 山ナシ
東工 大山義年 茨城
東醫 大和田信道 茨城
東北醫 岡部次雄 静岡
東文 甲斐孝助 福島
東醫 木村康一 東京

東醫	九醫	東理	九醫	東醫	東醫	東醫	東醫	千醫	千醫	千醫	千醫	
高垣清藏	蘇記之	島崎松雄	笹屋次雄	酒井博夫	河野寬	兒玉元一	小林一二三	小玉清	小泉秀雄	倉田庫司	菊池昇	木村玄洋
東京	支那	東京	長崎	千葉	栃木	長野	東京	新潟	神奈川	千葉	茨城	新潟

東農	東醫	東農	東北醫	千醫	東醫	東農	東農	東理	九醫	東醫	
橫山不學	山口六郎	山形賀	安間國夫	森義雄	森英亮	三坂和英	深作英	原田五十吉	林正七	八田稠	野澤貞智
東京	茨城	茨城	神奈川	東京	栃木	東京	茨城	茨城	茨城	福岡	新潟

大正十四年三月卒業

文科甲類

東法	東文	東經	東文	東法	東法	東法	東法	東經	東經
青木頼次	雨谷菊夫	伊村正祐	板倉公	一毛正捷	入江信三郎	上野春雄	枝吉卯之助	海老原登	遠藤恭介
東京	茨城	茨城	千葉	東京	栃木	東京	東京	茨城	長野

(六十三人)

東經	東法	東文	東經	東法	東法	東法	東經	東經	東法
小谷松三	大手參治郎	大場千秋	大町二郎	大森精	岡部檀	岡村周美	金成増彦	笠原昌滿	笠井壽太郎
東京	栃木	北海道	岡山	茨城	東京	和歌山	福島	神奈川	山梨

東經	東經		東經	東法	東文	東文	東北法文	東法	東法	東經	
石井敏三	五十嵐武	文科乙類	松尾武夫	細田德壽	舟橋聖一	伏見猛彌	福田貞吉	平井正一郎	平塚道雄	針谷恒治	早崎文雄
栃木	北海道		佐賀	茨城	東京	福島	栃木	岐阜	茨城	茨城	東京

			東文	東法	東法	東法	東法	東經	東法	東文	東經
牛田彌六	岩下 勉	(三十二人)	吉村榮吉	吉田寅之助	横田龍雄	山中德二	宮川浪雄	三村武	松野義重	牧野卯三郎	
山梨	大分		東京	茨城	愛媛	東京	熊本	神奈川	滋賀	長野	

東文	東法	東文	東北法文		東法	東文	東經	東法	東法	東經		
笹本虎雄	齋藤進	佐藤一厚	酒井厚	嵯峨根辰彦	佐伯義麿	小林健治	小仁所彌太郎	小杉德二郎	北澤孝一	菊池政次郎	菅野藏治	片柳真吉
神奈川	茨城	福島	東京	京都	富山	福島	東京	神奈川	東京	東京	宮城	東京

東經		東北法文	京經	東文		東經	東文	東經	東法	東法	東經	東經
萩原健雄	長谷川幸三	中田昌	中島元彦	中尾武雄	直井泰祐	田中慶吉	多田利男	竹内保高	關屋正雄	關田生吉	篠原東平	斯波隆義
福島	滋賀	茨城	山梨	廣島	栃木	栃木	福島	神奈川	岐阜	高知	長野	東京

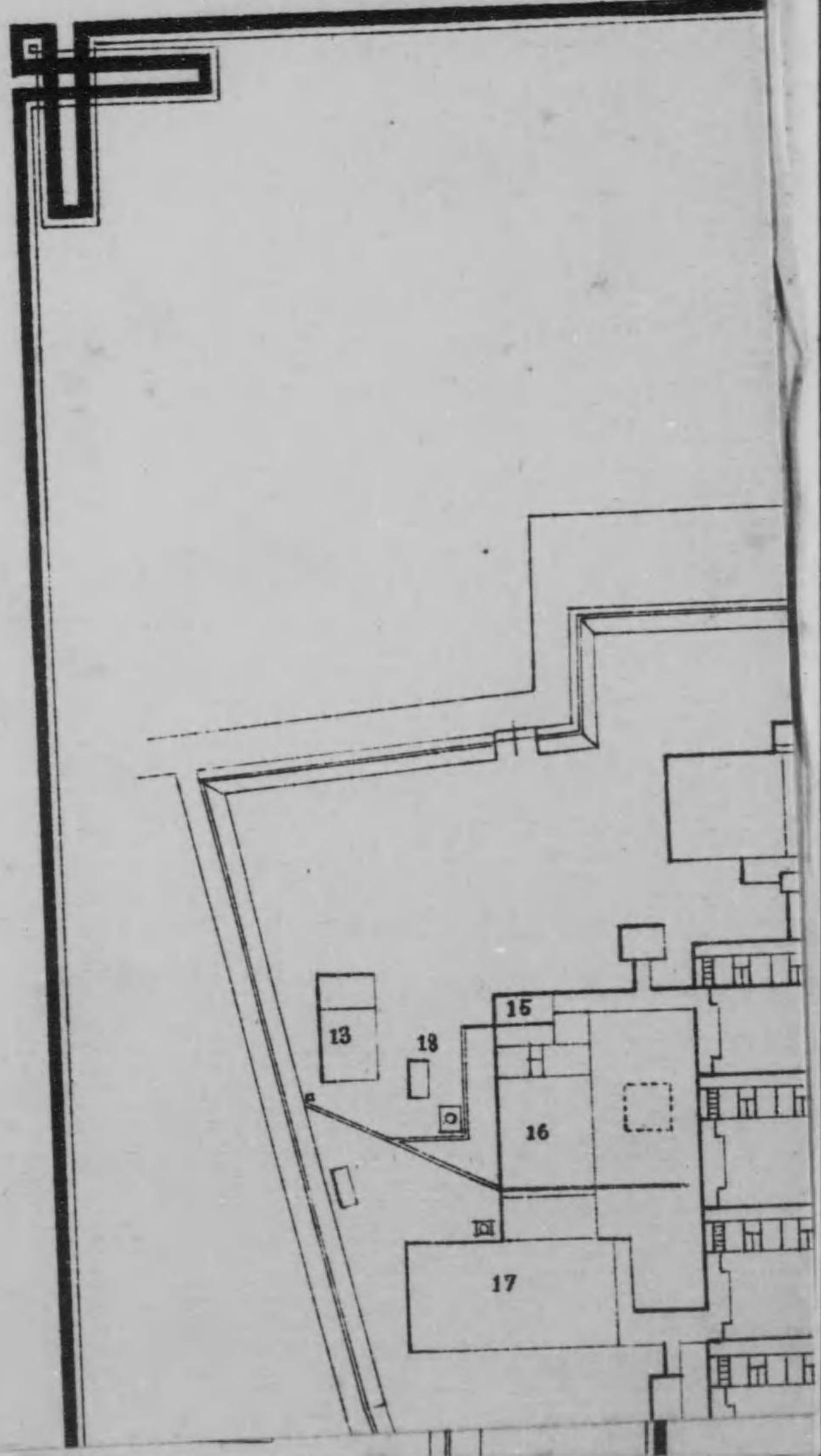
新	金	新	東	新	東	東	東	東	東
醫	醫	醫	農	醫	農	北	醫	理	醫
都	館	田	田	菅	須	白	篠	酒	小
築	內	邊	尻	又	賀	石	原	井	泉
和	三	重	敢	脩	田	義	登	欣	全
雄	郎	樹	敢	脩	謙	男	郎	朗	道
愛	東	滋	東	新	茨	茨	山	東	茨
知	京	賀	京	木	城	城	梨	京	城
東	九	新	東	東	東	新	東	東	京
農	醫	醫	理	文	工	醫	農	農	醫
湯	山	谷	望	萬	福	半	濱	畑	西
川	邊	島	月	澤	田	田	田	中	海
茂	榮	悟	勝	遼	金	成	成	彥	芳
雄	之	郎	海	遼	三	美	美	三	郎
東	福	茨	靜	熊	新	新	茨	崎	神
京	島	城	岡	本	木	木	城	玉	奈

一一一

東	東	東	東	東	東	東	東	東	千
醫	醫	農	農	醫	工	農	文	醫	醫
大	大	星	平	羽	中	中	鶴	種	瀧
島	島	野	野	鳥	山	村	岡	子	本
光	仁	武	真	庫	三	清	鶴	島	潔
信	仁	武	真	次	郎	清	吉	秀	明
茨	千	茨	岡	橋	神	鹿	千	茨	福
城	葉	城	山	木	奈	兒	葉	城	島
東	東	東	東	東	東	東	東	東	東
文	文	工	工	農	農	工	農	工	農
兼	大	吉	吉	湯	柳	柳	的	松	間
田	成	村	田	原	下	川	場	本	宮
三	龍	辰	至	益	鋼	吾	慎	喜	五
郎	雄	夫	至	治	造	郎	一	太	一
青	廣	東	長	茨	新	茨	和	三	神
森	島	京	野	城	湯	城	歌	重	奈

(三十人)

一一〇



大正十四年卒業生、非東門

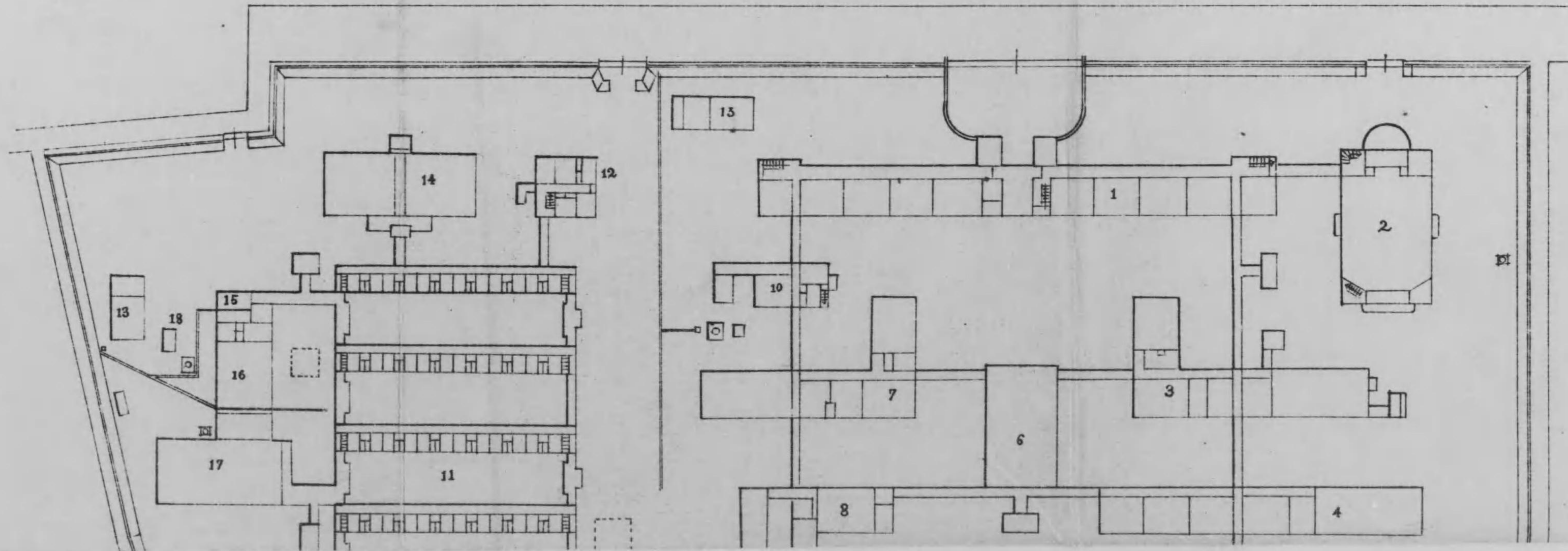
大正十四年六月一日

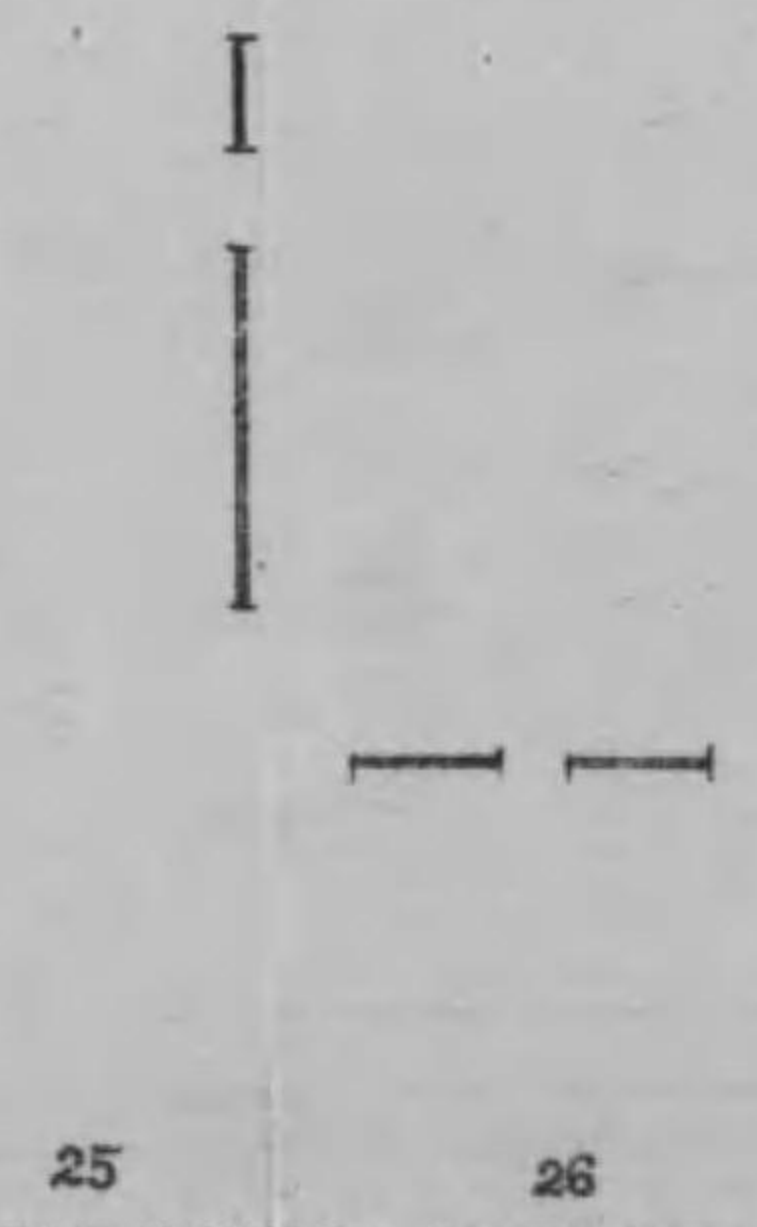
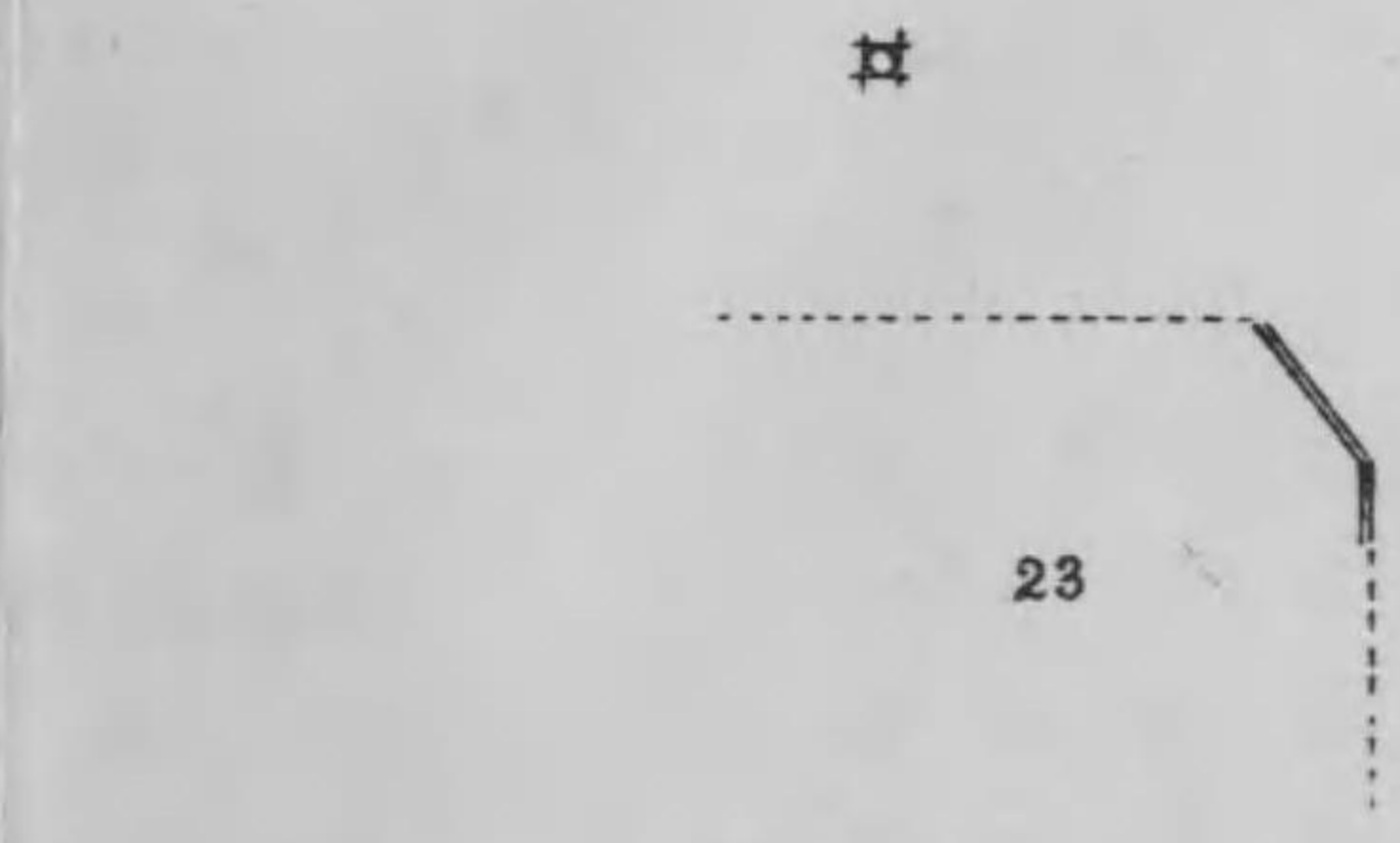
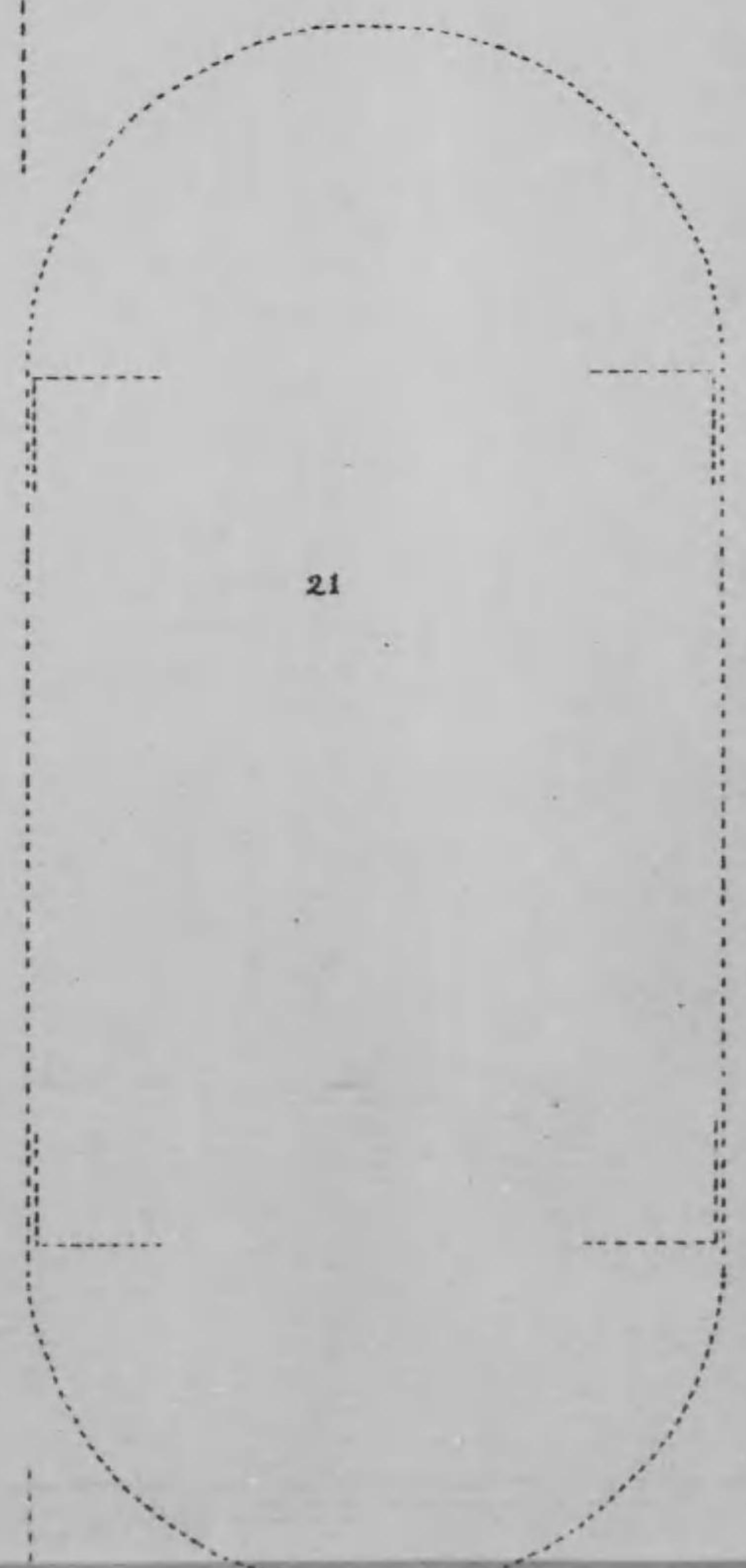
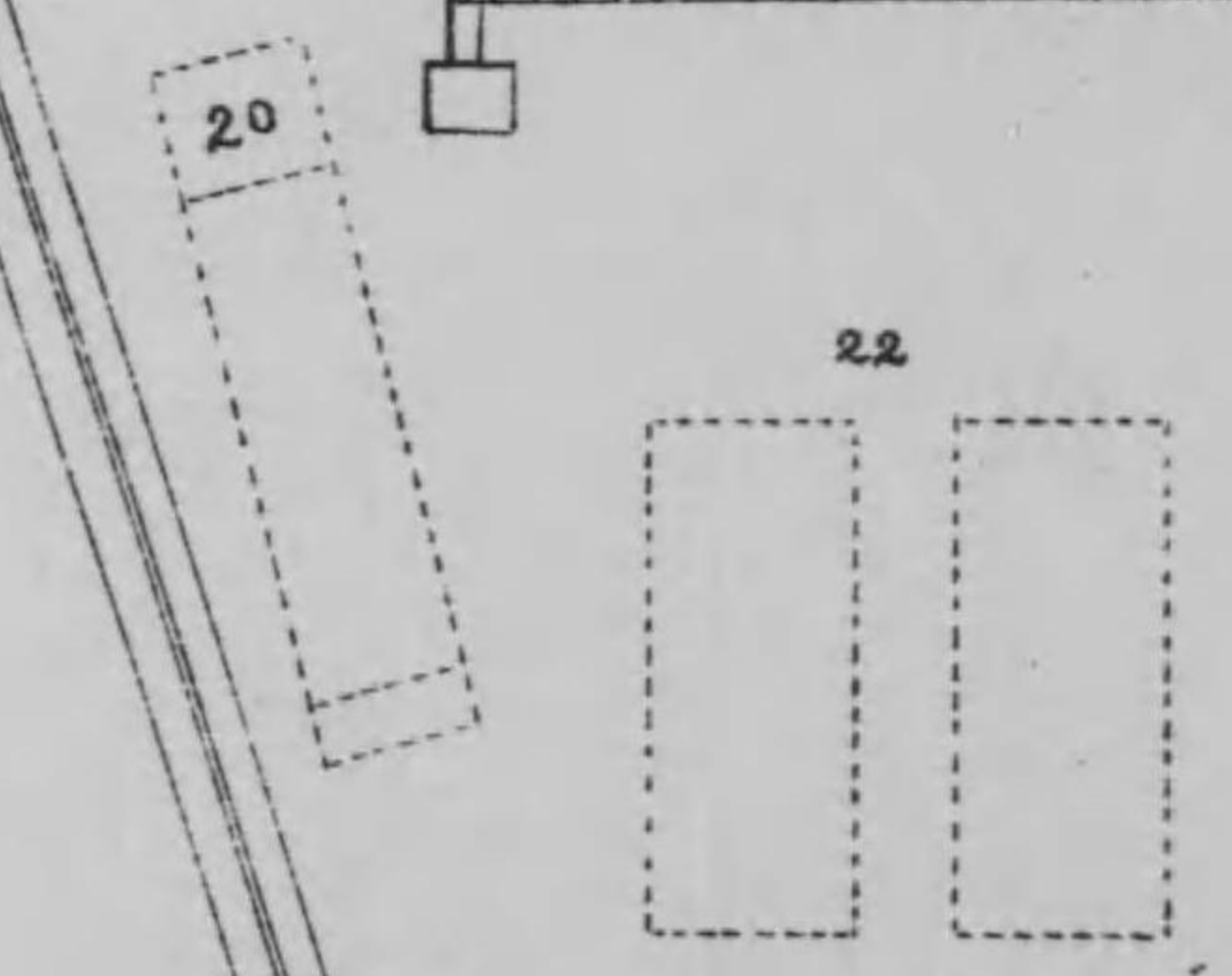
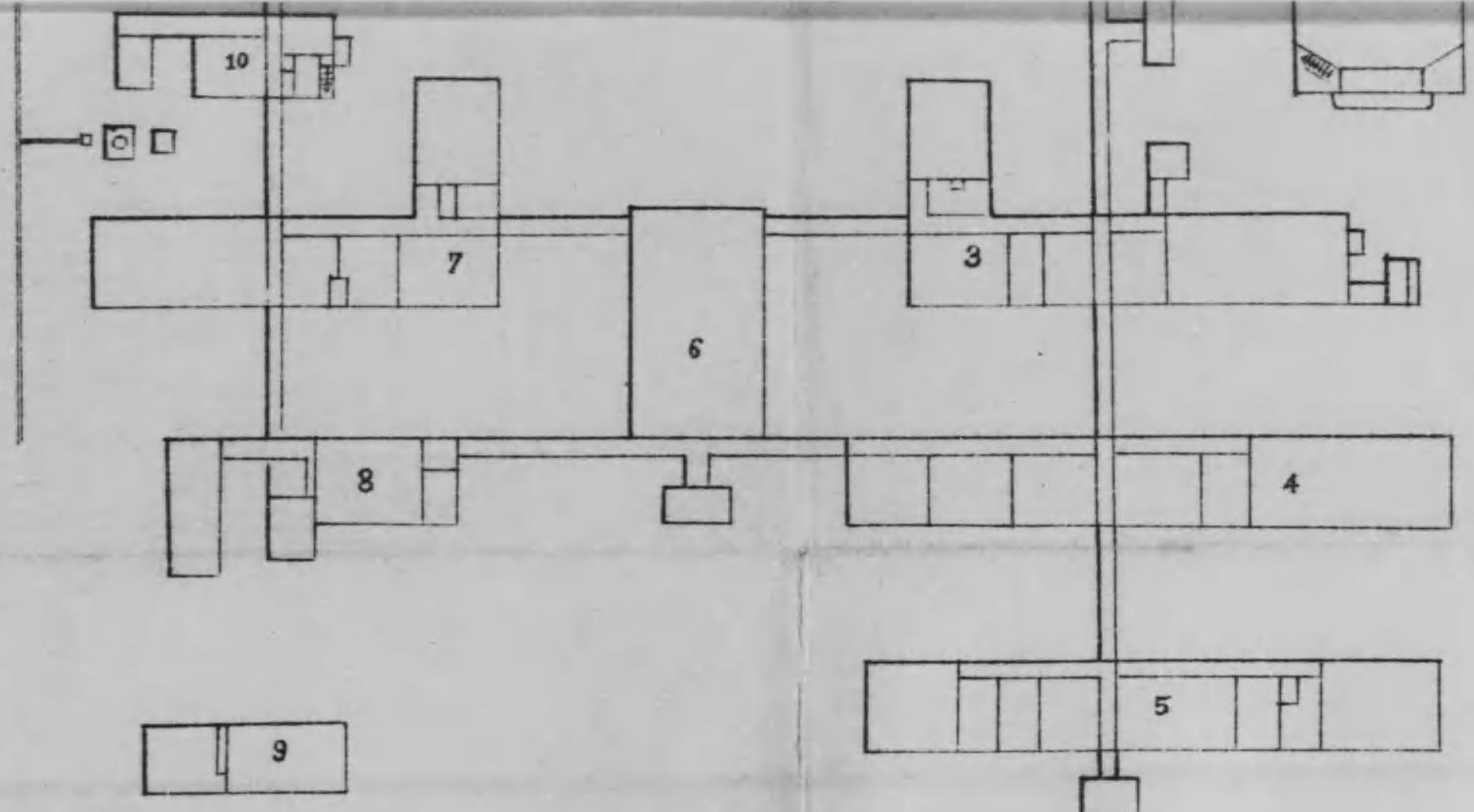
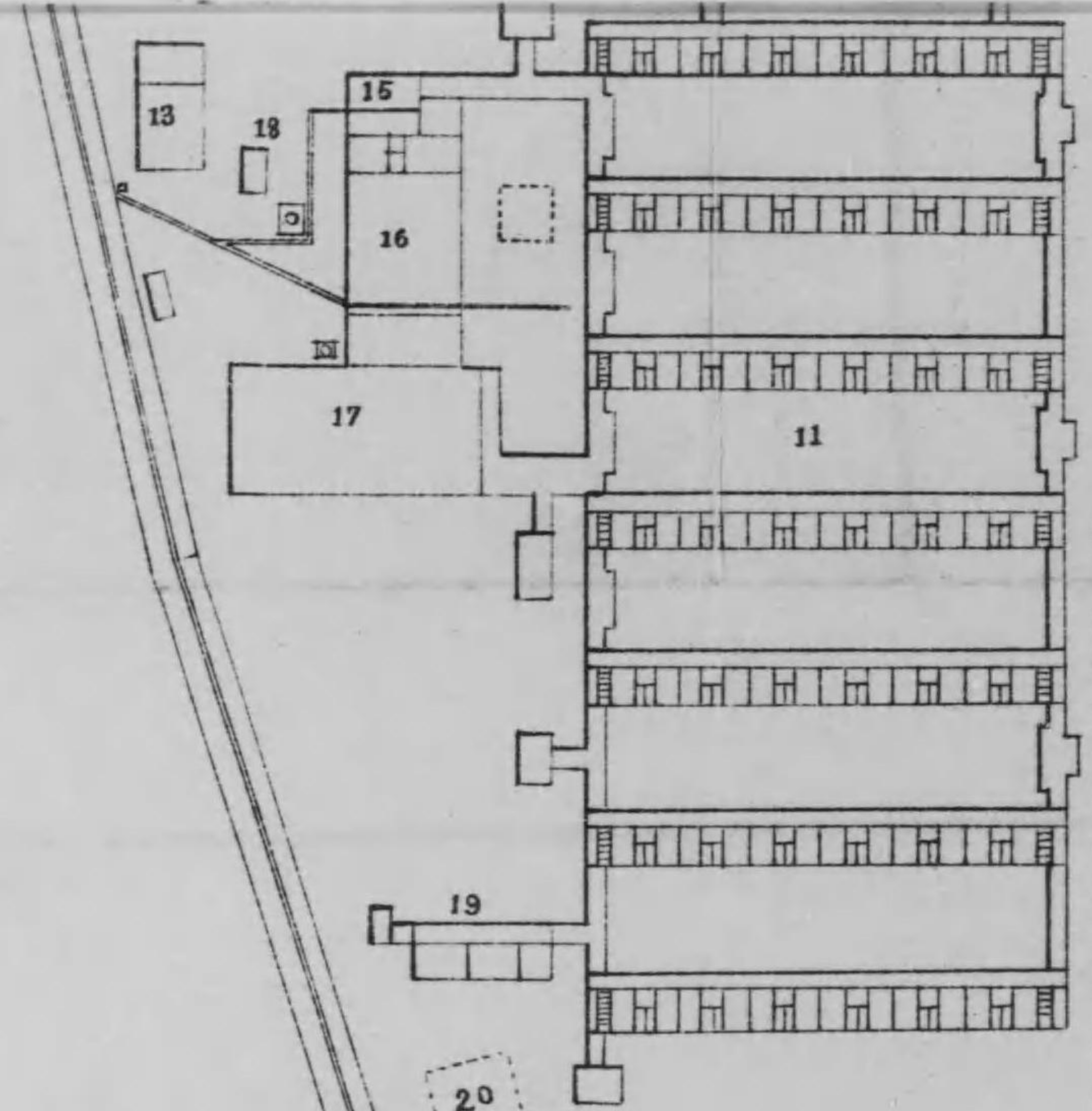
自	宅	計	總
三	一	六三	六三
一	一	三二	三二
一	一	五九	五九
一	一	三七	三七
一	一	三〇	三〇
一	一	六七	六七
三	二	一六二	一六二

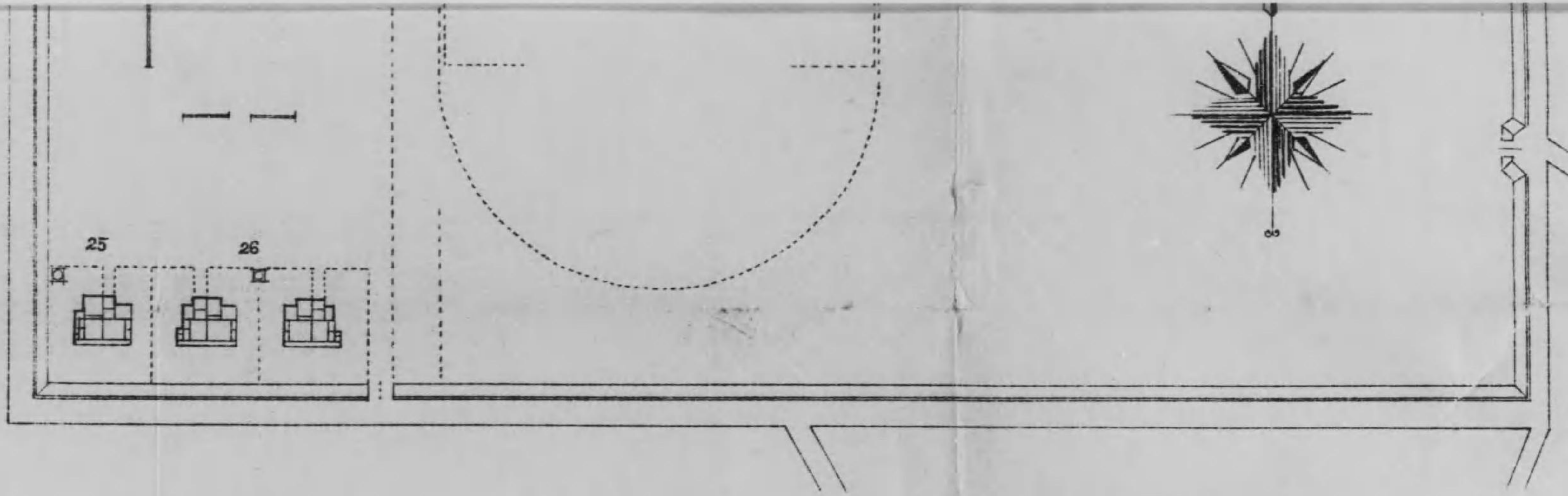
水戸高等學校 建物配置圖

本校敷地 二五五九四坪三合一勺

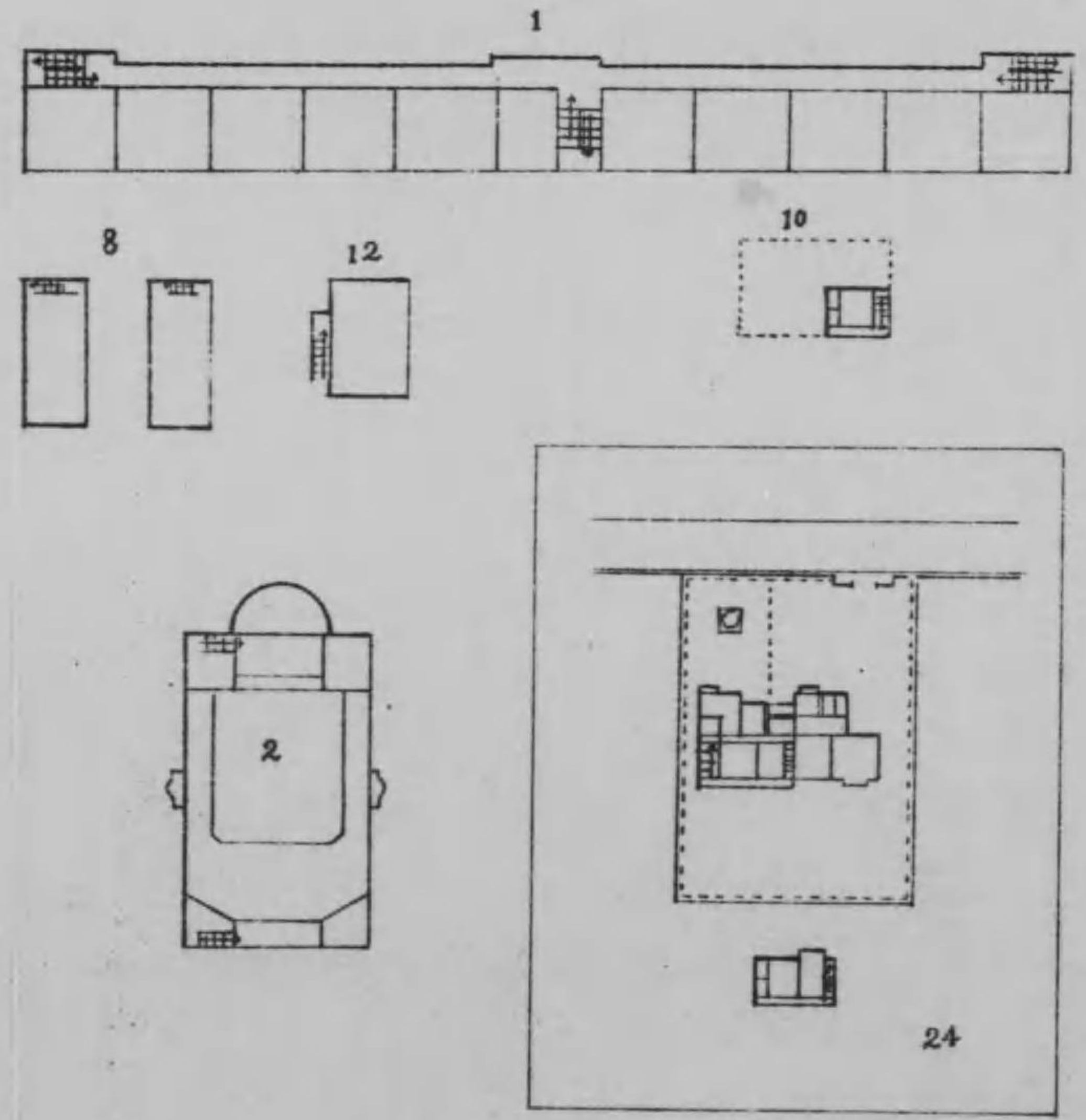
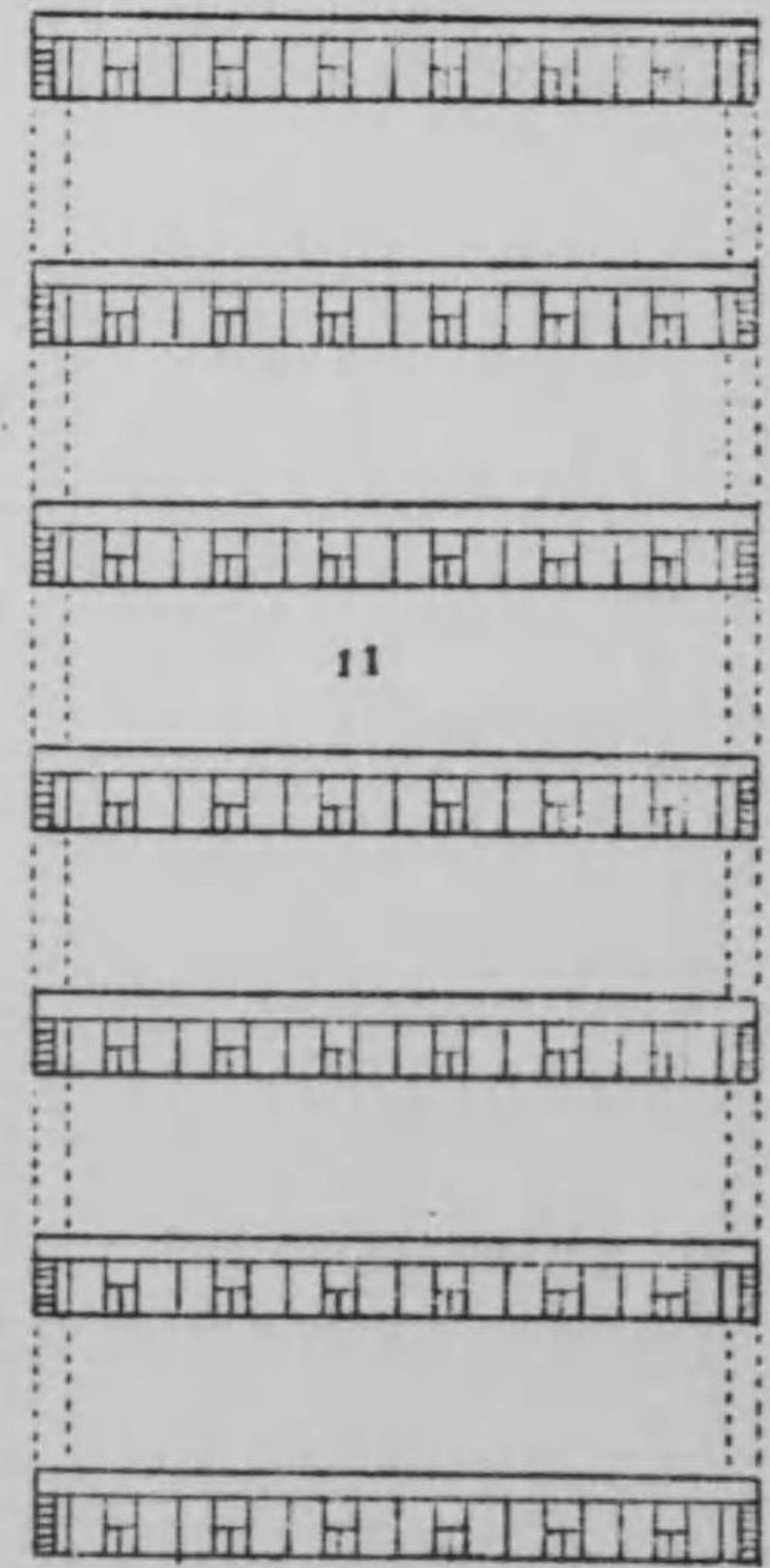
縮尺 一二〇〇分ノ一







階上



凡例

- | | |
|------------|-------------|
| 1 本館 | 14 柔剣道場 |
| 2 講堂 | 15 浴室 |
| 3 化学教室 | 16 炊事場 |
| 4 画学教室 | 17 食堂 |
| 5 博物学教室 | 18 汽罐室 |
| 6 生徒控所 | 19 攝生室 |
| 7 物理学教室 | 20 弓術場 |
| 8 圖書館 | 21 トラック及フルド |
| 9 銃器室 | 22 テニスコート |
| 10 電気室及小使室 | 23 野球球場 |
| 11 寄宿舎 | 24 校長官舎 |
| 12 訓務課分室 | 25 舎監官舎 |
| 13 物置 | 26 判任官官舎 |

水戸高等學校々友會々則

第一條 本會ハ水戸高等學校々友會ト稱ス

第二條 本會ノ目的ハ會員ノ親睦ヲ厚ウシ智德ヲ磨キ身體ヲ練リ以テ校風ヲ振作スルニ在リ

第三條 本會ノ會員ハ左ノ四種ヨリ成ル

- 一 通常會員 本校生徒
- 一 特別會員 本校職員
- 一 贊助會員 本校卒業及生徒タリシ者
- 一 名譽會員 本校舊教官及特ニ本會ニ功勞アリシ者

第四條 本會ニ左ノ諸部及應援團ヲ置ク

- 一 總務部
- 一 劍道部

- 一 柔道部
 - 一 弓術部
 - 一 陸上競技部
 - 一 旅行部
 - 一 相撲部
 - 一 庭球部
 - 一 野球部
 - 一 辯論部
 - 一 會誌部
 - 一 水泳部
 - 一 蹴球部
- 第五條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク (各部委員ハ他ノ役員ヲ兼ヌルコトヲ得ス)
- 一 會長 一名 學校長ヲ推ス

- 一 部長 各部一名 特別會員中ヨリ會長之ヲ委嘱ス
 - 一 理事 二十名 特別會員中ヨリ會長之ヲ委嘱ス
 - 一 幹事 二名 (文科及理科各一名) 通常會員ヨリ互選ス
 - 一 會計検査委員 三名 委員長一名特別會員中ヨリ會長之ヲ委嘱シ、委員二名學級委員ヨリ互選ス
 - 一 部委員 各部若干名(總務部ヲ除ク) 各部員ノ互選ニ基キ當該部長ノ推薦ニ依ル
 - 一 學級委員 各學級一名 各學級會員ヨリ互選ス
 - 一 應援團幹部 若干名 通常會員ヨリ互選ス
 - 一 書記 一名 特別會員中ヨリ會長之ヲ委嘱ス
 - 一 主計 一名 特別會員中ヨリ會長之ヲ委嘱ス
- 第六條 本會役員ノ任務左ノ如シ
- 一 會長ハ會務ヲ總攬ス

- 一 部長ハ當該部ノ事務ヲ管理ス 但シ總務部長ハ會長事故アル時ハ其事務ヲ代理ス
 - 一 理事ハ總務部ニ屬シ一般庶務會計ニ參與ス
 - 一 幹事ハ總務部ニ屬シ一般庶務會計ヲ處理ス
 - 一 會計検査委員ハ備品會計等ノ検査ヲナス
 - 一 部委員ハ當該部ノ庶務會計ヲ處理ス
 - 一 學級委員ハ各學級會員ヲ代表ス
 - 一 應援團幹部ハ運動各部對校試合應援ノ事ニ當ル
 - 一 書記ハ庶務ニ關スル事務ニ従事ス
 - 一 主計ハ會計ニ關スル事務ニ従事ス
- 第七條 本會役員ノ任期及選舉法ハ次ノ如シ
- 一 幹事 任期ハ一月十一日ヨリ翌年一月十日マテトシ毎年十二月中文科理科各一投票區トシテ改選ス

- 一 會計検査委員 毎年五月中改選ス
 - 一 部委員 任期ハ一月十一日ヨリ翌年一月十日マテトシ毎年十二月中改選ス
 - 一 學級委員 毎年五月中改選ス
 - 一 應援團幹部 任期ハ一月十一日ヨリ翌年二月十日マテトシ毎年十二月中改選ス
- 第八條 本會ハ必要ニ應シ隨時左記役員會ヲ開ク
- 一 役員總會 會長、部長、理事、幹事、應援團幹部二名、會計検査委員、部委員（各部一名）學級委員ヲ以テ組織シ豫算決定其他重要事項ニ就キ決議ス 但シ幹事應援團幹部及各部委員ハ採決ニ加ハルヲ得ス
 - 一 役員總會ハ總數三分ノ二以上出席スルニアラサレハ開クコトヲ得ス
 - 一 役員小會 總務部長、理事、幹事、會計検査委員、應援團幹部二名ヲ以テ組織シ緊急ノ事項其他一般會務ニ就キ決議シ會長ノ承認ヲ經テ役員總會ニ代フ 前項ノ決議事項ハ次ノ役員總會ニ於テ承認ヲ受クルヲ要ス
- 第九條 本會ノ會費ヲ左ノ如ク定ム 既納會費ハ何等ノ事情アルモ之ヲ返付セス

- 一 通常會員ハ入會金參圓トシ第一學期授業料ト共ニ納ム
 - 一 通常會員ノ會費ハ金拾四圓トシ第一學期金八圓第二學期金五圓第三學期金壹圓ヲ授業料ト共ニ納ム
 - 一 贊助會員ノ入會金ハ金貳圓トシ第三學期授業料ト共ニ納ム
 - 一 特別會員ハ一定ノ金額ヲ釀出スルモノトス
- 第十條 本會ノ豫算決定法次ノ如シ
- 一 各部委員及應援團幹部ハ豫メ幹事ト協議ノ上豫算請求書ヲ作製シテ總務部ニ提出ス
 - 二 前項ノ請求書ニ基キ役員小會ニ於テ豫算案ヲ作製ス
 - 三 前項ノ豫算案ニ就キ役員總會ニ於テ審議決定ス
- 第十一條 各部及應援團ニ左ノ帳簿ヲ備付ク
- 一 備品簿
 - 一 記錄簿

- 一 豫算明細書
 - 一 支拂傳票及出納簿
- 外ニ總務部ニ會員名簿ヲ備付ク
- 第十二條 會計検査委員ハ每學期一回以上各部及應援團ノ備品會計等ノ検査ヲナス
- 第十三條 各部及應援團ハ每年會計年度末ニ於テ歲出入決算報告書ヲ調製シ一月十五日マテニ總務部ニ提出シ總務部ハ之ヲ役員總會ニ提出シ其承認ヲ經タル上總務部ヨリ之ヲ公示ス
- 第十四條 書記及主計ニハ每年度末若干ノ報酬ヲナス
- 第十五條 本會會計規程ハ別ニ之ヲ定ム
- 第十六條 本會會則及會計規程ノ改正ハ役員總會出席役員三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルヲ要ス

附則

本會會則ハ大正十四年七月一日ヨリ之ヲ實施ス

水戸高等學校々友會々計規程

- 第一條 本會ノ會計年度ハ毎年一月十一日ニ始マリ翌年一月十日ニ終ル
- 第二條 一月中ハ前年度豫算ノ一割以内ノ範圍ニ於テ支拂傳票ヲ發行シ得 但シ一月十一日ヨリ一月末日マテ主計ハ規金ノ支拂ヲナササルモノトス
- 第三條 本會ノ歳入ハ會費、預金利子、基本金利子、及寄附金トス
- 第四條 本會ノ豫算ハ歳入ヲ以テ之ニ充テ左ノ五項ニ分チ豫算明細書ヲ作製ス
 - 一 各部費及應援團幹部費
 - 二 運動會費
 - 三 對外試合費（通常會員會費十四分ノ四以内）
 - 四 豫備費
 - 五 基本金積立金
- 第五條 豫算内ニ於ケル各項ノ金額ハ彼此流用スルコトヲ得ス

流用ノ必要アラハ豫メ會計検査委員長ノ檢印ヲ受クルヲ要ス

- 第六條 一 各部及應援團ニ於テ經費ノ支出ヲ要スル物件ノ購入又ハ修繕ヲナシ又ハ其他ノ支出ヲナサントスル時ハ本會所定ノ支拂傳票ヲ用ヒ必ス其傳票ト引換ニ物件ヲ受領スヘシ
 - 二 總テ支出ハ豫算ノ範圍ヲ超過シテナスコトヲ得ス若シ豫算ノ範圍ヲ超過シテ傳票ヲ發行シタル時ハ發行當事者ノ連帶責任ニ歸シ之ヲ辨償セシム
 - 三 支拂傳票ニ依ラスシテ物件ノ購入修繕其他ノ契約ヲナシタル時ハ當事者ノ責任ニ歸シ本會ハ一切之カ爲メニ要スル支拂ヲナサス
- 第七條 謝禮金又ハ遠隔ノ地ニテ購入ヲ要シ代金請求者自身出頭シ得サル時及委員ニ於テ現金ノ先拂ヲ便トスル時ハ傳票ニ會計検査委員ノ檢印ヲ得テ主計ヨリ現金ヲ受領スルコトヲ得
- 前項ニ依リ支拂ヲナシタル時ハ直ニ受領書其他ノ証憑書類ヲ會計検査委員ニ提示

シ殘額アリタル時ハ之ヲ主計ニ返付スヘシ其間ノ損益事項ハ會計報告ヲ終ルマテ之ヲ保管スル

第八條 會計ニ關スル總テノ證據書類受領証等ハ會計報告ヲ終ルマテ之ヲ保管スルヲ要ス

第九條 通常會員入會金總額三分ノ一贊助會員入會金豫算外收入物品賣却代豫算剩餘金其他指定ノ寄附金ハ本會基本金トス

第十條 基本金ハ役員總會ノ決議ニ依ルニアラサレテ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十一條 現金ノ出納ハ主計一切之ヲ掌ル

第十二條 現金ハ會長ノ名義ヲ以テ信用アル銀行ノ預金トシテ之ヲ保管ス

第十三條 傳票ノ形式ハ別表ノ通りトシ其ノ有効期間ハ發行年度末限リトス

本令ハ大參事四日 照

高等學校令(抄)

第一條 高等學校ハ男子ノ高等普通教育ヲ完成スルヲ以テ目的トシ特ニ國民道德ノ

充實ニカムヘキモノトス

第七條 高等學校ノ修業年限ハ七年トシ高等科三年尋常科四年トス

高等學校ハ高等科ノミヲ置クコトヲ得

第八條 高等學校高等科ヲ分チテ文科及理科トス

第十二條 高等學校高等科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ當該學校尋常科ヲ修了シタル者、中學校第四學年ヲ修了シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上

ノ學力アリト認めラレタル者トス

第十三條 高等學校ノ生徒定數ハ高等科四百八十人以内尋常科三百二十人以内トシ

第七條第二項ノ高等學校ニ在リテハ專攻科ヲ除キ六百人以上トス

第十四條 高等學校ニ於テハ同科同學年ノ生徒ヲ以テ學級ヲ編制スヘシ

一學級ノ生徒定數ハ四十人以內トス

第十五條 高等學校ニ於テハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ學科目ノ種類ニ從ヒ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得

第十六條 高等學校ノ教員ハ文部大臣ノ授與シタル高等學校教員免許狀ヲ有スル者タルコトヲ要ス但シ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

高等學校教員免許狀ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十七條 高等學校ノ設備、編制、學科目及其ノ程度、教科書並生徒ノ入學退學及懲戒、授業料入學料等ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

附 則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

高等學校規程(抄)

第一章 學科課程及教科書

第二節 高等科

第四條 高等科文科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、第一外國語、第二外國語、歷史、地理、哲學概説、心理及論理、法制及經濟、數學、自然科學、體操トス

高等科理科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、第一外國語、第二外國語、數學、物理、化學、植物及動物、礦物及地質、心理、法制及經濟、圖書、體操トス

外國語ハ英語、獨語又ハ佛語トス

第二外國語ハ隨意科目トス

第五條 修身ハ教育ニ關スル勅語ノ趣旨ニ基キ道德上ノ思想及情操ヲ養成シ實踐躬行ヲ勸奨スルヲ以テ要旨トス

修身ハ道德ノ要領ヲ授ケ國家、社會、家族ニ對スル責務並人格修養ニ關シ必要ナル事項ヲ知ラシメ特ニ我國民道德ヲ會得シ其ノ實行ニ努メシムヘシ

第六條 國語及漢文ハ言語文章ヲ了解シ正確且自由ニ思想ヲ表ハスノ能力ヲ得シメ

智徳ヲ啓發シ文學上ノ趣味ヲ養フヲ以テ要旨トス

國語及漢文ハ文科ニ在リテハ近世、近古及中古ノ國文ヲ授ケ進ミテ上古文ノ一般

ニ及ホシ又普通ノ漢文ヲ講讀セシメ國語文法及國文學史ノ大要ヲ授ケ作文ニ習熟

セシムヘシ

理科ニ在リテハ近世及近古ノ國文並普通ノ漢文ヲ授ケ作文ニ習熟セシムヘシ

第七條 外國語ハ英語、獨語又ハ佛語ヲ了解シ且之ニ依リテ思想ヲ表ハスノ能力ヲ

得シメ兼テ智徳ノ増進ニ資スルヲ以テ要旨トス

外國語ハ發音、綴字、讀方、譯解、話方、作文、書取及文法ヲ授クヘシ

第八條 歴史ハ重要ナル古今ノ事蹟ヲ知ラシメ邦國ノ盛衰、文化ノ發達ヲ理會セシ

メ特ニ我國運發展ノ由來、國體ノ特異ナル所以ヲ明ニシ國民性格ノ養成ニ資スル

ヲ以テ要旨トス

歴史ハ日本歴史、東洋歴史及西洋歴史ヲ授クヘシ

第九條 地理ハ我國及重ナル世界各國ノ現狀ヲ知ラシムルヲ以テ要旨トス

地理ハ我國及諸外國ノ政治、經濟等ニ關スル地理上ノ智識ヲ授クヘシ

第十條 哲學概説ハ思想界ニ關スル知識ヲ與ヘ哲學ノ概念ヲ會得セシムルヲ以テ要

旨トス

哲學概説ハ東洋及西洋ノ哲學、宗教等ニ就キテ其ノ大要ヲ授クヘシ

第十一條 心理及論理ハ心意ニ關スル知識ヲ得シメ思考ヲ鍛鍊セシムルヲ以テ要旨

トス

心理及論理ハ各種ノ精神作用、思考ノ原則及其ノ方法ノ概要ヲ授クヘシ

第十二條 數學ハ數理ヲ會得セシメ計算應用ニ熟セシメ思考ヲ精確ナラシムルヲ以

テ要旨トス

數學ハ文科ニ在リテハ數學諸論ノ大要ヲ授ケ、理科ニ在リテハ代數、立體幾何、

三角法、初等解析幾何、初等微分積分及初等力學ヲ授クヘシ

第十三條 自然科學ハ天然物及自然ノ現象ニ關スル知識ヲ與ヘ其ノ法則ヲ理解セシ

ムルヲ以テ要旨トス

自然科學ハ生物、地質、物理、化學等ニ關スル主要ナル事項ヲ授クヘシ

第十四條 物理、化學ハ自然ノ現象ニ關スル知識ヲ與ヘ其ノ法則ヲ理會セシメ之カ應用ヲ示シ兼テ觀察工夫ノ力ヲ養フヲ以テ要旨トス

物理ハ力學、物性、音響、熱、光、磁氣、電氣ヲ授ケ又主要ナル實驗ヲ課スヘシ
化學ハ無機化學及有機化學ヲ授ケ又主要ナル實驗ヲ課スヘシ

第十五條 植物及動物、礦物及地質ハ天然物ニ關スル知識ヲ與ヘ之カ應用ヲ示シ兼テ觀察ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

植物及動物ハ生物ノ形態、生理、分類、進化ニ關スル知識ヲ授ケ又主要ナル實驗ヲ課スヘシ

礦物及地質ハ礦物ノ產狀、性質、用途、地球ノ構成及其ノ變遷ニ關スル知識ヲ授ケ又便宜主要ナル實驗ヲ課スヘシ

第十六條 法制及經濟ハ法制及經濟ニ關スル事項ニ就キ國民生活ニ必要ナル知識ヲ

得シムルヲ以テ要旨トス

法制及經濟ハ帝國憲法ノ大要及日常ノ生活ニ適切ナル法制上及經濟財政上ノ事項ヲ授クヘシ

第十七條 圖書ハ形體ヲ正確且自由ニ畫クノ能力ヲ得シメ意匠ヲ練リ思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

圖書ハ自在畫、平面幾何畫、立體幾何畫ヲ授クヘシ

第十八條 體操ハ身體ヲ健全ニシ動作ヲ敏活ナラシメ剛健ノ精神ト規律ヲ守リ協同ヲ尙フノ習慣トヲ養フヲ以テ要旨トス

體操ハ教練及體操ヲ授クヘシ又劍道及柔道ヲ加フルコトヲ得

第十九條 文科ノ各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	學年		
	第一學年	第二學年	第三學年
修身	一	一	一
國語及漢文	六	五	五

第一外國語	九	八	八
第二外國語	(四)	(四)	(四)
歷史	三	五	四
地理	二		
哲學概説			三
心理及論理		二	二
法制及經濟		二	二
數學	三	三	
自然科學	二	三	
體操	三	三	三
計	二九 (三三)	二九 (三三)	二八 (三二)

第一外國語ハ尋常科又ハ中學校ニ於テ生徒ノ履修シタル外國語トス但シ生徒ノ志望ニ依リ第一外國語ノ種類ヲ轉換スルコトヲ得シム此ノ場合ニ於テハ各學年ニ於ケル第一外國語及第二外國語ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	年	第一學年	第二學年	第三學年
第一外國語		一一	一〇	一〇
第二外國語		(三)	(三)	(三)
計		三一 (三四)	三一 (三四)	三〇 (三三)

第二外國語ヲ修メサル者ニ對シテハ其ノ教授時數ヲ便宜他ノ學科目ニ配當スルコトヲ得

第二十條 理科ノ各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	年	第一學年	第二學年	第三學年
修身		一	一	一
國語及漢文		四	二	
第一外國語		八	六	六
第二外國語		(四)	(四)	(四)
數學		四	四	四
物理			三	三
物				講義三 實驗二 五

化學	植物及動物	二	二	三	講義三 實驗二 【四】
植物及地質	二	二	二	二	【二】
心理	二	二	二	二	【二】
法制及經濟	二	二	二	二	【二】
圖畫	二	二	二	二	【二】
體操	三	三	三	三	【二】
計	二八 (三二)	二八 (三二)	二八 (三二)	二八 (三二)	【二】

第三學年ノ數學【二】及圖畫【二】ト第三學年ノ植物及動物【講義二實驗二】トハ生徒ヲシテ其ノ一ヲ選擇セシムルモノトス

第一外國語ハ尋常科又ハ中學校ニ於テ生徒ノ履修シタル外國語トス但シ生徒ノ志望ニ依リ第一外國語ノ種類ヲ轉換スルコトヲ得シム此ノ場合ニ於テハ各學年ニ於ケル第一外國語ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科	學年	第一學年	第二學年	第三學年
----	----	------	------	------

第一外國語	一〇	九	九
第二外國語	(三)	(三)	(三)
計	三〇 (三三)	三一 (三四)	三一 (三四)

第二外國語ヲ修メサル者ニ對シテハ其ノ教授時數ヲ便宜他ノ學科目ニ配當スルコトヲ得

第四節 教授上ノ注意

第二十二條 高等學校ニ於テハ高等學校令第一條ノ趣旨ニ依リ生徒ヲ教育シ殊ニ國民道德ノ充實ニ關聯セル事項ハ何レノ學科目ニ於テモ常ニ留意シテ教授センコトヲ要ス

各學科目ノ教授ハ其ノ目的及方法ヲ誤ルコトナク互ニ相聯絡シテ補益センコトヲ要ス

第五節 教科書

第二十三條 高等學校ノ教科書ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ學校長之ヲ定ムヘシ但シ文部大臣ノ檢定ヲ經タル中學校教科書ヲ尋常科ノ教科書トシテ使用スル場合ニ於テ

ハ認可ヲ要セス

第二章 學年、教授日數及式日

第二十四條 學年ハ四月一日ヨリ翌年三月三十一日マテトス但シ九月一日ヨリ翌年八月三十一日マテト爲スコトヲ得

第二十五條 教授日數ハ尋常科ニ在リテハ每學年二百二十日以上高等科ニ在リテハ每學年二百日以上専攻科ニ在リテハ百九十日以上トス但シ次條ノ場合及特別ノ事情ニ依リ文部大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ニ於テハ此ノ限ニアラス

試験及修學旅行ニ充ツル日數ハ前項ノ日數ニ算入セス

第二十六條 傳染病豫防ノ爲必要ナルトキ其ノ他非常變災アルトキハ臨時休業ヲ爲スコトヲ得

第二十七條 紀元節、天長節祝日及一月一日ニハ職員及生徒學校ニ參集シテ祝賀ノ式ヲ行フヘシ

第三章 編 制

第二十八條 高等科ニ於テハ國語及漢文、外國語、數學ヲ教授スル場合ヲ除ク外文部大臣ノ認可ヲ受ケ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得

第四章 設 備

第三十一條 高等學校ニ於テハ校地、校舎、體操場及校具ヲ備フヘシ

第三十二條 校地ハ學校ノ規模ニ適應セル面積ヲ有シ且道德上及衛生上害ナキ所タルヘシ

第三十三條 校舎ニハ教室、事務室其ノ他必要ナル實驗室、圖書室、器械室、標本室等ヲ備フヘシ

校舎ハ教授上、管理上及衛生上適當ニシテ堅牢ナルコトヲ要ス

第三十四條 校具ハ教授上必要ナル圖書、機械、器具、標本、模型等トス

第三十五條 高等學校ニ於テハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外左ノ表簿ヲ備フヘシ

- 一 學則 日課表及教科用圖書配當表
- 二 職員ノ名簿及履歷書並擔任學科目及時間表

三 生徒學籍簿、出席簿、身體檢查ニ關スル表簿及入營延期又ハ徵兵猶豫ニ關スル書類

四 試験ノ問題、答案及成績表

五 資産原簿、出納簿、經費豫算、決算ニ關スル帳簿及圖書、機械、器具、標本、模型ノ目錄

生徒學籍簿ニハ生徒ノ氏名、族籍、居所、生年月日、入學前ノ學歷、入學轉學退學ノ年月日及其ノ學年、卒業ノ年月日、入學試験ノ有無、轉學退學ノ事由、徵兵事故、保證人ノ氏名及居所等ヲ記載スヘシ

第六章 入學、在學、休學、退學及懲戒

第三十八條 生徒ヲ入學セシムヘキ時期ハ學年ノ始ヨリ三十日以内トス

第四十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ高等科ノ入學ニ關シ中學校第四學年ヲ修了シタル者ト同等以上ノ學力アリト認ム

一 他ノ高等學校尋常科ヲ修了シタル者

二 高等學校高等科入學資格試験ニ合格シタル者

三 專門學校入學者檢定規定ニ依リ試験檢定ニ合格シタル者

四 文部大臣ニ於テ高等學校高等科ノ入學ニ關シ指定シタル者

五 文部大臣ニ於テ一般ノ專門學校ノ入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力アリト指定シタル者

前項ノ資格試験ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第四十四條 當該高等學校尋常科ヲ修了シタル者以外ノ入學志願者ノ數高等科各科ニ入學セシムヘキ人員ニ超過スルトキハ中學校第四學年修了ノ程度ニ依ル試験ニ依リテ入學者ヲ選拔スヘシ但シ無試験檢定ヲ行ヒテ入學者ヲ定ムルコトヲ得

第四十五條 高等學校ニ於テハ入學志願者ニ對シテ體格検査ヲ行ヒ之ニ合格シタル者ニ限リ入學セシムヘシ但シ當該學校ニ於テ豫科ヨリ尋常科ニ進入シ又ハ尋常科ヨリ高等科ニ進入スル者ニ關シテハ此限ニ在ラス

第四十六條 高等科第二學年以上ニ入學ヲ許スヘキ者ハ第一學年ニ入學スル資格ヲ

有シ且前各學年ノ課程ヲ修了シタル者ト同等以上ノ學力ヲ有スル者タルヘシ
前項入學者ノ學力ハ前各學年ノ程度ニ於テ其ノ各學科目ニ就キ試験ニ依リ之ヲ檢
定スヘシ

第四十七條 高等學校生徒ニシテ退學シタル者退學シタル時ヨリ一年以内ニ於テ高
等學校ニ入學ヲ志願シタル時ハ同一學年以下ノ學年ニ限リ入學ヲ許可スルコトヲ
得

前項ノ場合ニ於テ其ノ退學シタル高等學校ニ再入學ヲ志願シタル者ニ限リ試験ニ
依ラサルコトヲ得

第四十八條 高等學校生徒ニシテ他ノ高等學校ニ轉學ヲ志望スル者アルトキハ關係
學校長ノ協議ニ依リ之ヲ許可スルコトヲ得

第五十條 高等學校ニ於テ各學年ノ課程ノ修了又ハ全學科ノ卒業ヲ認ムルニハ平素
ノ學業及試験ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定ムヘシ但シ正當ノ事由アリテ試験ニ缺席シ
タル者ニ對シテハ平素ノ成績ノミヲ考查シテ之ヲ定ムルコトヲ得

試験ハ學校長ノ見込ニ依リ之ヲ行ハサルコトヲ得

第五十一條 學校長ハ一學年ノ課程ヲ修了セサル生徒ノ學年ヲ進ムルコトヲ得ス

第五十二條 學校長ハ高等學校高等科ヲ卒業シタル者ニハ卒業證書ヲ授與スヘシ

第五十三條 學校長ハ正當ノ事由アリト認メタルトキハ生徒ノ休學ヲ許可スヘシ

第五十四條 學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ退學ヲ命スヘシ

- 一 性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者
- 二 學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者
- 三 引續キ一年以上缺席シタル者
- 四 正當ノ事由ナクシテ引續キ一箇月以上缺席シタル者
- 五 出席常ナラサル者

第五十五條 生徒退學セントスルトキハ學校長ノ許可ヲ受クヘシ

第五十六條 學校長ハ教育上必要ト認メタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得

第五十八條 高等學校ノ學則中ニ規定スヘキ事項凡左ノ如シ

- 一 學年、學期及休業日ニ關スル事項
- 二 學科課程、教授時數ニ關スル事項
- 三 課程ノ修了及卒業ノ認定ニ關スル事項
- 四 生徒入學、退學、懲戒ニ關スル事項
- 五 授業料入學料等ニ關スル事項

附 則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

文部省直轄諸學校官制(抄)

第六條 文部省直轄諸學校ニ左ノ職員ヲ置ク

- 校長
- 教授
- 生徒監

助教授

書記

第七條 校長ハ勅任又ハ奏任トス文部大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第八條 教授ハ勅任又ハ奏任トシ助教授ハ判任トス生徒ノ教育ヲ掌ル

第九條 生徒監ハ奏任教官ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

生徒監ハ校長ノ指揮ヲ承ケ専ラ生徒ノ訓育ヲ掌ル

第十條 書記ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ従事ス

第十七條 專任教官中其ノ學校所設ノ某學科ヲ擔任スヘキ者ヲ得サル場合ニ於テハ兼任教官ヲ置キ若クハ學校長ニ於テ特ニ文部大臣ノ許可ヲ得テ臨時ニ講師ヲ囑託シ其ノ學科ノ授業ヲ擔任セシムルコトヲ得

文部省直轄諸學校長職務規程

第一條 校長ハ判任官ノ進退ヲ具狀シ及高等官ノ進退ニ付意見ヲ具ヘテ文部大臣ニ

稟申スルコトヲ得

第二條 校長事故アルトキハ文部大臣ノ許可ヲ經テ高等官ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシムルコトヲ得

第三條 左ノ事項ハ校長之ヲ專行スヘシ但シ第六號及第八號ニ關シテハ處分後文部大臣ニ報告スヘシ

第一 教官ノ學科擔任及事務員ノ分課ヲ定ムルコト

第二 規則ノ施行上必要ナル細則ヲ設クルコト

第三 俸給月額八拾五圓以下ノ雇員ノ進退ニ關スルコト

第四 教官以下ノ内國各地出張ニ關スルコト

第五 教官以下ノ除服出仕請暇ニ關スルコト

第六 講師ノ解雇及其ノ報酬減額ニ關スルコト

第七 經費中ノ目ヲ流用スルコト

第八 三日以内ノ臨時休業ヲ爲スコト

第四條 前條ニ掲ケタル事項ノ外文部大臣ノ許可ヲ受ケ之ヲ施行スヘシ

高等學校教員規程(抄)

第一條 高等學校高等科教員免許狀ハ本令ノ定ムル所ニ依リ教員檢定ニ合格シタル者ニ之ヲ授與ス

第二條 第九條第二號ニ該當スル者ニシテ高等學校高等科教員養成ニ關スル規程ニ依リ教員タルノ義務ヲ有スル者ハ教員檢定ニ合格シタル者ト看做ス文部省外國留學生規程ニ依リ高等學校高等科教員タルノ義務ヲ有スル者亦同シ

第三條 第一條ノ免許狀及中學校教員免許狀ハ當該學科目ニ關シ高等學校尋常科教員免許狀タルノ效力ヲ有ス

第四條 教員檢定ハ受験者ノ學力、性行、身體ニ就キ之ヲ行フ

第五條 檢定ヲ爲スヘキ學科目左ノ如シ

修身、國語、漢文、英語、佛語、獨語、日本史及東洋史、西洋史、地理、哲學概說、心理及論理、法制及經濟、數學、物理、化學、植物、動物、地質及礦物、圖書

前項ノ學科目ニ就キ試験檢定ヲ行フ場合ニ於テ第九條第六號ノ受験者ニ對シテハ檢定ヲ受ケントスル學科目ニ併セ本人ノ選擇ニ依リ英語、佛語、獨語ノ中一科目ニ就キ其ノ學力ヲ試験スルモノトス但シ本人カ英語、佛語又ハ獨語ニ付中學校教員免許狀ヲ有スルトキ又ハ檢定ヲ受ケントスル學科目カ英語、佛語、獨語ノ中一ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六條 試験檢定ヲ行フ場合ニ於テハ受験者出願ノ學科目ノ試験ニ附隨シ其ノ授業法ヲ試験スルモノトス

第七條 試験檢定ハ每年少クトモ一回之ヲ行ヒ無試験檢定ハ隨時之ヲ行フ
試験檢定ノ出願期限及試験ヲ行フヘキ學科目ハ文部大臣之ヲ告示シ試験施行ノ期日及試験ヲ行フヘキ場所ハ教員檢定委員會長之ヲ公告ス

第八條 檢定ヲ受ケントスル者ハ願書(第一號書式)ニ左ノ書類ヲ添ヘ試験檢定ニ在リテハ住居地ノ地方廳ヲ經由シ無試験檢定ニ在リテハ住居地ノ地方廳若ハ當該學校ヲ經由シ文部大臣ニ出願スヘシ

一 履歷書(第二號書式)及學業證書若ハ免許狀ノ寫

二 第九條第二號乃至第五號ニ該當スル者ニ在リテハ當該學校長ノ證明書(第三號書式)

三 醫師ノ身體檢查書(第四號書式)

地方長官又ハ當該學校長ハ本人ノ性行ニ就キ意見ヲ具申スルコトヲ要ス

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ試験檢定ヲ受クルコトヲ得

一 學位ヲ有スル者

二 大學ヲ卒業シタル者又ハ大學ニ於テ試験ニ合格シ學士ト稱スルコトヲ得ル者

三 高等師範學校ヲ卒業シタル者但シ修業年限二ケ年ノモノヲ除ク

四 專門學校本科又ハ神宮皇學館本科ヲ卒業シタル者

五 高等學校大學豫科又ハ學習院高等學科及元高等學科ヲ卒業シタル者

六 當該學科ニ關シ中學校教員免許狀ヲ有スル者

七 外國ニ於テ高等學校ニ準スヘキ學校ヲ卒業シタル者

八 外國ニ於テ大學若ハ之ニ準スヘキ學校ニ入り學位若ハ卒業證書ヲ有スル者
九 五年以上大學、大學豫科、高等學校專門學校又ハ之ニ準スヘキ學校ノ教員タ
リシ者

前項第九號專門學校ニ準スヘキ學校ハ文部大臣之ヲ指定ス

第十條 第九條第一號第二號及第九號ニ該當スル者高等師範學校專攻科又ハ東京高
等商業學校專攻部ヲ卒業シタル者及本邦ニ於テ高等學校若ハ之ニ準スヘキ學校ヲ
卒業シ又ハ外國ニ於テ高等學校ニ準スヘキ學校ヲ卒業シ更ニ外國ニ於テ大學若ハ
之ニ準スヘキ學校ニ入り學位若ハ卒業證書ヲ有スル者ハ文部大臣ノ適當ト認メタ
ル學科目ニ關シ無試験檢定ヲ受クルコトヲ得

第十一條 不正ノ方法ニ依リ試験ヲ受ケントシタル者又試験ニ關スル規程ニ違背シ
タル者ハ試験ヲ受クルコトヲ得ス
檢定ニ合格シタル後前項ノ事實發覺シタルトキハ其ノ合格ヲ無効トス

第十二條 高等學校專攻科教員ニ付テハ免許狀ヲ要セス公立及私立ノ高等學校ニ於

テ專攻科教員ヲ採用セントスルトキハ擔任學科目、本人ノ履歷書及戶籍抄本ヲ具
シ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十三條 高等學校高等科ニ於テハ教員數ノ三分ノ一以内ヲ限リ高等科教員免許狀
ヲ有セサル者ヲ以テ教員ニ充ツルコトヲ得

第十四條 體操ニ關シテハ高等科教員免許狀ヲ要セス

第十五條 高等學校高等科ニ於テ體操ヲ擔任スル教員ハ第十三條ノ關係ニ付テハ高
等科教員免許狀ヲ有スル者ト看做ス

第十六條 公立及私立ノ高等學校ニ於テ第十三條ノ規程ニ依リ高等科教員免許狀ヲ
有セサル者ヲ教員ニ採用セントスルトキハ擔任學科目、本人ノ履歷書及戶籍抄本
ヲ具シ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ規程ハ體操ヲ擔任スル教員ノ採用ニ關シ之ヲ準用ス

第十七條 高等學校尋常科ニ於テハ教員數ノ三分ノ一以内ヲ限リ第三條ノ教員免許
狀ヲ有セサル者ヲ以テ教員ニ充ツルコトヲ得

附 則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ後三年間ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ第十三條ノ制限ヲ超エ高等科教員免許
狀ヲ有セサル者ヲ教員ニ採用スルコトヲ得

本令施行前文部省直轄學校ノ勅任又ハ奏任ノ教員タリシ者ハ高等科教員免許狀ヲ有
スル者ト看做ス

(書式ハ略ス)

官立高等學校高等科入學者選抜試験規程

第一條 入學志願者ノ數當該高等學校生徒募集人員ニ超過シタルトキハ選抜試験ヲ
行フ

第二條 各高等學校ニ入學セシムヘキ生徒ノ概數、選抜試験ニ關スル細目及出願ノ
手續等ハ其ノ都度文部大臣之ヲ告示ス

第三條 選抜試験ノ學科目ハ中學校第四學年マテノ必修學科目中ニ就キ之ヲ選定ス

但シ外國語ハ英語、獨語及佛語ノ中本人ヲシテ其ノ一ヲ選ハシム

前項ノ試験ハ中學校第四學年終了ノ程度ニ依ル

第四條 選抜試験ハ各高等學校同時ニ之ヲ行フ

第五條 入學志願者ハ其ノ入學後修業セントスル科及類ヲ指定スヘシ

指定スヘキ科及類ハ左ノ如シ

文科	甲類	英語ヲ第一外國語トスルモノ
文科	乙類	獨語ヲ第一外國語トスルモノ
文科	丙類	佛語ヲ第一外國語トスルモノ
理科	甲類	英語ヲ第一外國語トスルモノ
理科	乙類	獨語ヲ第一外國語トスルモノ
理科	丙類	佛語ヲ第一外國語トスルモノ

選抜試験ノ外國語ニ英語ヲ選フ者ハ志望ノ類二個以上(同一科内ノ類ニ限ル)ヲ併
セ指定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ志望ノ類ノ順位ヲ定ムヘシ獨語ヲ選フ

者ノ志望シ得ル類ハ文科乙類又ハ理科乙類ニ限り佛語ヲ選フ者ノ志望シ得ル類ハ文科丙類又ハ理科丙類ニ限ル

第六條 入學ヲ許可スヘキ者ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ定ム

一 各高等學校ニ於テ各科毎ニ其科ニ入學セシムヘキ人員ノ總數ト同數ノ人員ヲ試験ノ成績順ニ依リ選出ス

二 前號ノ場合ニ於テ試験成績相同シキトキハ抽籤ニ依ル

三 前二號ニ依リ選出スル人員ニ就キ試験ノ成績順ニ依リ本人ノ指定スル第一ノ志望類ニ配當ス

四 前號ニ依リ配當ノ結果本人ノ指定スル第一ノ志望類既ニ滿員トナリタル場合ニ於テハ更ニ成績順ニ依リ本人ノ指定スル第二以下ノ志望類ニ配當ス

五 本人ノ指定スル類悉ク滿員トナリタルトキハ入學スルコトヲ得サルモノトス前項ニ依リ配當ノ結果又ハ事故ノ爲入學者ニ缺員ヲ生シタルトキハ入學スルコトヲ得サリシ者ニ就キ更ニ前項ノ方法ニ依リ之ヲ補填ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

高等學校高等科入學資格試験規程

第一條 高等學校規定第四十三條ノ高等學校高等科入學資格試験ヲ受ケントスル者ハ年齢滿十六年以上ノ男子ニシテ身體健全、品行方正且現ニ中學校ニ在學セサル者タルヘシ

第二條 高等學校高等科入學資格試験ハ文部大臣ノ指定シタル中學校ニ於テ便宜之ヲ行フ

第三條 試験ハ中學校第四學年マテノ必須各學科目ニ就キ第四學年修了ノ程度ニ依リ之ヲ行フヘシ

第四條 中學校ニ於テハ高等學校高等科入學資格試験ニ合格シタル者ニ合格證書ヲ交付スヘシ

第五條 高等學校高等科入學資格試験ノ問題、答案及成績表ハ五年以上保存スヘシ

第六條 中學校ニ於テハ本令ノ試験ニ付試験手数料ヲ徴收スルコトヲ得

附 則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

專門學校入學者檢定規程

第一條 專門學校ノ本科ニ入學セントスル者ニシテ中學校若ハ修業年限四箇年以上ノ高等女學校ヲ卒業セサル者ハ此ノ規程ニ依リ檢定ヲ受クヘキモノトス

第二條 檢定ヲ受ケントスル者ハ左ノ資格ヲ具備スルコトヲ要ス

一 年齢男子ハ滿十七年以上女子ハ滿十六年以上ナルコト

二 身體健全ナルコト

三 品行方正ナルコト

四 現ニ中學校若ハ高等女學校ニ在學セサルコト

第三條 檢定ヲ分チテ試験檢定、無試験檢定ノ二トシ試験檢定ハ官立、公立ノ中學校若ハ修業年限四箇年以上ノ高等女學校ニ於テ便宜之ヲ行ヒ無試験檢定ハ當該專

門學校ニ於テ生徒入學ノ際之ヲ行フ

第四條 試験檢定ノ學科目及其ノ程度ハ中學校若ハ修業年限四箇年ノ高等女學校ノ各學科目及其ノ卒業ノ程度トス但シ中學校若ハ高等女學校ニ於テ加除シ又ハ課セサル事ヲ得ル學科目ハ之ヲ省ク

第五條 官立、公立ノ中學校若ハ高等女學校ニ於テハ試験檢定ニ合格シタル者ニハ試験檢定合格證書ヲ交付スヘシ

第六條 官立、公立ノ中學校若ハ高等女學校ニ於テハ試験檢定ノ問題、答案及成績表ハ五箇年以上保存スヘシ

第七條 官立、公立ノ中學校若ハ高等女學校ハ試験檢定手数料ヲ徴收スルコトヲ得第八條 左ニ掲クル者ハ無試験檢定ヲ受クルコトヲ得

一 文部大臣ニ於テ專門學校ノ入學ニ關シ中學校若ハ修業年限四箇年ノ高等女學校ノ卒業者ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノト指定シタル者

學生生徒兒童身體檢査規程(抄)

第一條 學生生徒兒童身體檢查ハ毎年四月ニ於テ之ヲ施行スヘシ但シ止ムヲ得サル
場合ハ五月ニ於テ之ヲ施行スルコトヲ得

監督官廳又ハ學校長ニ於テ必要ト認ムルトキ又ハ學校醫ニ於テ必要ト認メ學校長
ノ同意ヲ得タルトキハ身體檢查ノ全部若ハ一部ヲ臨時施行スルコトヲ得

第二條 身體檢查ハ學校醫ヲシテ之ヲ行ハシムヘシ

學校醫ナキ場合若ハ學校醫カ身體檢查ヲ行ヒ難キ事情アルトキハ他ノ醫師ヲシテ
之ヲ行ハシムルコトヲ得

學校職員又ハ他ノ適當ナルモノヲシテ身體檢查ノ一部ヲ助ケシムルコトヲ得

第三條 身體檢查ハ左ノ項目ニ就キ施行スヘシ

- 一、發育（身長、體重、胸圍）概評
- 二、榮養
- 三、脊柱
- 四、視力及屈折狀態
- 五、色神
- 六、眼疾
- 七、聽力
- 八、耳疾
- 九、齒牙
- 十、其ノ他ノ疾病
及異常
- 十一、監察ノ要否

前項目ノ外必要ト認メタル事項ハ特ニ檢查ヲ行フコトヲ得

色神檢查ハ在學中一回行ヒタルトキハ其ノ後之ヲ省略スルコトヲ得

第四條 身體檢查ハ左ノ各號ニ準據シテ施行スヘシ

- 一 檢查ノ表記ニハ度ハ尺、衡ハ貫ヲ以テ單位トシ四捨五入法ヲ用ヒテ度ハ分、
衡ハ分ニ止ムヘシ
- 二 身長ヲ測定スルニハ足袋、靴等ヲ脱セシメ兩踵ヲ密接シテ直立シ兩上肢ヲ鉛
直ニ垂レ頭部ヲ正位ニ保タシムヘシ
- 三 體量ハ著衣ノ儘測定シタルトキハ其ノ著衣ノ重量ヲ全量ヨリ除去スヘシ
- 四 胸圍ハ起立ノ姿勢ニ於テ兩上肢ヲ自然ニ垂レシメ乳頭ノ水平線ニ沿ヒ普通呼
氣ノ終レル時ヲ測定スヘシ
- 五 發育ノ概評ハ別ニ定ムル標準ニ據リ甲、乙、丙ノ三ニ分ツモノトス
- 六 榮養ハ甲、乙、丙ニ分チ其ノ佳良ナルヲ甲トシ不良ナルヲ丙トシ其ノ中間ナ
ルヲ乙トス
- 七 脊柱ハ正、左彎、右彎、前彎、後彎ヲ區別シ彎ニ就テハ凡テ其ノ凸側ニ依リ

- 八 前後左右ノ方向ヲ表示スルモノトス其ノ程度ハ之ヲ強弱ノ二種ニ區別シ自己ノ意思ニ依リ容易ニ矯正シ得ルモノヲ弱トシ然ラサルモノヲ強トス
- 九 視力ハ萬國式視力表ニ就キ兩眼ヲ各別ニ検査シ裸眼視力ヲ記入スベシ裸眼視力一、〇以上ナルモノヲ正視眼トス
- 十 屈折機ノ異常アルモノハ其ノ種別ヲ記入スヘシ
- 十一 弱視、失明等モ兩眼ニツキ各別ニ記入スヘシ
- 十二 色神ハ其ノ異常アルモノニ就キ色盲及色弱ヲ區別スヘシ
- 十三 聽力ハ其ノ障碍ノ有無ヲ検査スヘシ
- 十四 齒牙ハ齶齒ニ就キ検査スヘシ
- 十五 其ノ他ノ疾病及異常ハ検査ノ際發見シタルモノヲ記入スヘシ殊ニ結核性疾患、腺病、肋膜炎、心臟疾患及機能障碍、貧血、脚氣、傳染性皮膚病、腺樣增殖症及扁桃腺肥大、「ヘルニヤ」、神經衰弱、精神障碍ニ注意スヘシ
- 十六 監察ノ要否ハ検査ノ結果身心ノ健康狀態不良ニシテ學校衛生上特ニ繼續的

ニ監察ヲ要スト認ムル者ヲ「要」トシ記入スルモノトス

- 第五條 第一條第一項ノ身體検査ヲ施行シタルトキハ其ノ結果ヲ身體検査票ニ記入シ本人同一種類ノ學校ニ在學中連年之ヲ繼續スヘシ但シ程度ヲ異ニスル學科部類ヲ有スル學校ニ在リテハ其ノ部類毎ニ別票ヲ用フルモノトス
- 第六條 第一條第二項ノ臨時身體検査ノ際必要ト認ムル事項ヲ發見シタルトキハ之ヲ身體検査票ノ裏面ニ記入スルモノトス繼續的監察ノ場合亦同シ
- 第七條 他校ヨリ轉入シタル者アルトキハ學校長ハ前ノ學校ヨリ其ノ身體検査票ノ交付ヲ受ケ使用スヘシ身體検査票ハ學校長ニ於テ保管スヘシ
- 第八條 第六條 身體検査ヲ施行シタルトキハ學校長ハ其ノ結果ヲ本人若ハ其ノ保護者ニ示スヘシ授業免除、就學猶豫、就學免除、休學、退學又ハ治療保護矯正等ヲ要スヘキモノアルトキハ本人若ハ其ノ保護者ニ對シテ特ニ注意ヲ與ヘ其ノ他必要ナル處置ヲ取ルヘシ

第七條 第一條第一項ノ身體検査ヲ施行シタルトキハ學校長ハ身體検査統計表ヲ調

製シ其ノ年六月限り文部省直轄學校長ニ在リテハ文部大臣ニ報告スヘシ

附 則

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十三年文部省令第四號ハ之ヲ廢止ス

(身體検査票及統計表様式略ス)

發育概評決定標準(抄)

學生生徒兒童及幼兒ノ發育概評ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ定ムルモノトス

- 一 七年ヨリ十八年マテノ男子ハ被檢者ノ身長、體重、身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商ノ三者カ何レモ左記發育標準表ニ照シテ當該年齡ヨリ一年々長ノモノノ標準以上ナルヲ甲トシ之ニ該當セスシテ一年年少ノモノノ標準以上ナルヲ乙トシ甲乙何レニモ該當セサルモノヲ丙トス
- 二 十九年以上ノ男子ニアリテハ身長五尺三寸、體重十四貫三百匁、身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商カ二、七〇以上ナルヲ甲トシ之ニ該當セスシテ身長五尺一

寸八分體量十三貫匁身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商カ二、五一以上ナルヲ乙トシ
甲、乙何レニモ該當セサルヲ丙トス

發育概評決定標準表(抄) 十五年以下ヲ略ス

年 齡	身 長		體 重	身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商
	男	女		
十 六 年	五、〇四	一、八六〇	二、三五	
十 七 年	五、一八	一、二、八五〇	二、四八	
十 八 年	五、二五	一、三、五三〇	二、五八	
十 九 年	五、二九	一、四、〇二〇	二、六五	

文部省直轄諸學校生徒ノ學校長ノ許可ナクシテ受ケ
タル他ノ直轄諸學校入學試驗無効ニ關スル規程

文部省直轄諸學校生徒ニシテ學校長ノ許可ヲ受ケス他ノ文部省直轄諸學校ノ入學試驗ヲ受ケタルトキハ其ノ入學試驗ハ無效トス

一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十

學校一覽 正誤

- | | | |
|----|------------|----------|
| 頁 | 誤 | 正 |
| 毛 | 相馬良○ | 相馬良馬○ |
| 六 | 堀圭之助○ | 堀圭之助○ |
| 五 | 伊東菊郎○ | 伊藤菊郎○ |
| 吉 | 山本清○ | 神奈川○ |
| 七 | 澤井文雄○ | 澤井文雄○ |
| 八 | 群馬近藤富三郎○ | 太田○ |
| 九 | 水戸竹若筑紫茨城○ | 慶應福岡○ |
| 十 | 藤代善次郎ノ次脫落○ | 水戸藤卷肇山梨○ |
| 十一 | 彦間策郎○ | 座間策郎○ |
| 十二 | 濱田成美○ | 濱田成義○ |

283
31

終

